

# 吉崎市地域少子化対策強化 アンケート調査業務報告書



 **シンクながさき**  
公益財団法人ながさき地域政策研究所

平成27年1月



# 目次

## 第1章 調査概要

1. 調査目的.....	1
2. 実施期間.....	1
3. 調査対象.....	1
4. 抽出方法.....	1
5. 調査方法.....	1
6. 有効回答数及び回収率.....	1
7. 調査結果の見方.....	2
8. 設問項目.....	2

## 第2章 調査結果

1. 対象者の基本属性.....	10
2. 壱岐市で暮らすことについて.....	12
3. 結婚について.....	28
4. 妊娠・出産について.....	39
5. 育児について.....	47

## 第3章 調査結果の検証

1. 壱岐市で暮らすことについて.....	61
2. 結婚について.....	61
3. 妊娠・出産について.....	62
4. 育児について.....	62



# 第1章 調査概要



## 第1章 調査概要

### 1. 調査の目的

本調査は、危機的な少子化問題に対応するため、結婚・妊娠・出産・育児の一貫した「切れ目のない支援」を行うにあたり、既存データでは把握困難な若者(高校生以上30歳未満の市民)の置かれている環境その他の事情、潜在的なニーズを調査・分析することにより対策検討の基礎資料とすることを目的とする。

### 2. 実施期間

平成26年10月1日(水)～11月14日(金)

### 3. 調査対象

吉崎市内在住の高校生及び20歳代の男女3,500人

### 4. 抽出方法

無作為抽出法

### 5. 調査方法

郵送による配布・回収

### 6. 有効回答数及び回収率

有効回答数：701件      回収率：20.0%

#### 参考]アンケートの回収票の信頼性について

アンケート票数と誤差との関係は、当然アンケート票数が少ないと誤差は大きく、アンケート票数が高いと誤差は少なくなります。しかし、統計学的にその関係は一定ではなく、一定の数を超えると、票数を大幅に増やしても誤差はほとんど変わらなくなる。

統計学的には、この「一定の数」は、目標誤差：3～5%以内であれば良いとされており、それを下記の計算式で逆算すると概ね400～1,100票程度と算出される。つまり、有効回答票の回収数がこの程度あれば住民意向の把握として十分納得できる数字であるといえる。

#### 《参考》サンプル数（アンケートの有効回答票数）と誤差との関係式

$$\sigma = k \sqrt{\frac{(M-n)}{(M-1)} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

M：母集団

n：有効回答数

p：結果の比率

k：信頼率による定数

σ：標本誤差

※kは信頼率を決めると自動的に決まる定数で、信頼率に対応する標準正規分布の%点である。信頼率は、統計的な慣習として95%とすることが多く、信頼率95%ならばkは1.96となる。

## 7. 調査結果の見方

- (1) 回答は、原則として各質問の調査数を基数とした百分率(%)で表し、小数点第2位を四捨五入している。このため、百分率の合計が100%にならない場合がある。また、2つ以上の回答ができる複数回答の質問では、回答比率の合計が100%を超える場合がある。
- (2) 図表中の選択肢表現は、コンピュータ入力の都合上、調査票の回答選択肢を短縮し表現している場合がある。
- (3) 図表中には、回答者数が非常に少ない場合がある。このような場合には、回答比率の数字が動きやすく、厳密な比較をすることが難しいので、回答の傾向を見る程度になる。

## 8. 設問項目

(回答区分の標記) SA：単一回答、MA：複数回答、FA：記述回答

設 問	選 択 肢	回 答 区 分
問1. あなたの性別をお答えください。	1. 男      2. 女	SA
問2. あなたの年齢をお答えください。	1. 20歳未満      2. 20～25歳未満 3. 25歳以上	SA
問3. あなたの主な職業をお答えください。	1. 高校生      2. 大学生・専門学生等      3. 会社員・団体職員 4. 自営業      5. 公務員 6. パートタイマー      7. 家事専業 8. 無職      9. その他(具体的に )	SA
問4. あなたが現在お住まいの状況をお答えください。	1. 壱岐市内(島外に住んだことが無い) → 問6へ 2. 壱岐市内(一度島外に出いていたが島に戻ってきた) → 問5へ	SA
問5. 壱岐市に戻ったとき、または戻ろうかと考えた時に不安に感じたことは何ですか？	1. 就職そのものができるか 2. 自分の望む職種につけるか 3. 住まいを確保できるか 4. 異性との出会いや機会があるか 5. 買い物など日常生活が不便になるのではない か 6. 近所づきあいが煩わしいのではないか 7. 収入面でこれまでの生活レベルが維持できる か 8. その他	MA
問6. 将来、壱岐市に住み続けたいですか？	1. ずっと住みたい → 問7へ 2. 一度は島外へ出ても壱岐市に戻って住みたい → 問6—1へ	SA



壱岐市地域少子化対策強化アンケート調査業務

設 問	選 択 肢	回 答 区 分
	3. 住みたくない → 問6—2へ 4. わからない → 問7へ	
問6-1 2の回答者 島外に出る理由は何ですか？	1. 進学で島外に出ると思う 2. 就職で島外に出ると思う 3. はっきりとした予定は無いが島外に出たいと思っている 4. その他(具体的に )	SA
問6-2 3の回答者 壱岐市に住みたくない理由は何ですか？	1. 買い物など生活が不便だから 2. 魅力あるイベント、遊ぶ場所が少ないから 3. 親元を離れて一人暮らしをしたいから 4. 街に活気が無いから 5. 都会に興味があるから 6. 仕事が無いから 7. 希望する学校が無いから 8. 若い人が少ないから 9. 近所づきあいが煩わしい 10. 島自体好きではないから 11. その他	MA
問7. 将来(4～10年後)はどうなっていると思いますか？	1. 島外に進学・就職し、島外で生活していると思う → 問8へ 2. 島外の学校を卒業、または仕事をやめて壱岐市に戻っていると思う → 問8へ 3. 家族が自分を必要する機会があれば戻っているかもしれない → 問8へ 4. 将来は壱岐市を離れ、島内にはいないと思う → 問8へ 5. 壱岐市を離れない → 問9へ 6. わからない → 問8へ	SA
問8. 壱岐市に戻るきっかけとなることはどんなことですか？	1. 大学・専門学校などの卒業 2. 結婚 3. 自分・家族の健康(介護含む) 4. 仕事の区切り(転職・退職など) 5. 収入面・生活の維持 6. 家族の希望 7. 友人・知人がいるから 8. やはり壱岐が好きだから 9. その他	MA



吉崎市地域少子化対策強化アンケート調査業務

設 問	選 択 肢	回答区分
	8. 人生・生活を変えたい 9. その他	
問16. 問14で1. 2と回答された方に質問です。結婚したいと思う時期をお答えください。	1. 20歳未満 2. 20～24歳 3. 25～29歳 4. 30～34歳 5. 35歳以上	SA
「長崎市」の夜景観光に望むものとして最も当てはまるものは何ですか。	①夜景そのものの魅力向上 ②訪れやすい視点場の増加 ③展望スペースの整備・拡大 ④視点場のバリアフリー化 ⑨夜景の説明案内板などの整備 ⑩夜景ガイドの充実 ⑪夜景に関する情報発信、広報宣伝の充実 ⑫夜景に関するイベントの充実 ⑬夜景の見えるレストランなどの充実 ⑭展望台の売店・おみやげなどの充実 ⑮その他  1番目( ) 2番目( ) 3番目( )	MA
問17. 問14で3. 4. と回答された方に質問です。結婚しない理由をお答えください。	1. 結婚したいと思える相手がいない 2. 家族を養うほどの収入がない 3. 精神的に自由でいられない 4. 経済的に自由がきく 5. 異性とうまくつきあえない 6. 仕事(学業)に打ちこみたい 7. 結婚資金が足りない 8. まだ若すぎる 9. その他	MA
問18. 問13で1. 2. と回答された方に質問です。どうすれば結婚に踏み切ると考えられますか？	1. 結婚したい相手がいれば 2. 結婚後の生活が維持できそうな収入になる 3. 結婚後の生活に必要な貯蓄・財産の蓄え 4. 自分・相手に時間的な余裕ができる 5. 子育てしやすい行政の各種支援の充実 6. 子育てがしやすい勤務先の環境整備 7. 親の理解 8. 自分の雇用・労働条件が良くなる 9. 自分や相手が一定の年齢になる 10. 妊娠する 11. その他( )	MA

吉崎市地域少子化対策強化アンケート調査業務

設 問	選 択 肢	回答区分
	12. 上記の条件では踏み切るまで至らない	
問19. 問13で2. 3. と回答された方に質問です。結婚を決断した一番のきっかけは何ですか。	1. 好きになった相手と一緒にになりたいと思ったから 2. 自分または相手の年齢 3. 周りの結婚・出産を見て「自分もそろそろ」と思った 4. 相手の「これ以上待てない」といった言葉や態度 5. 子どもが欲しいと思ったから 6. 親の勧め 7. 自分の仕事や収入がある程度の水準になった 8. 相手の仕事や収入がある程度の水準になった 9. 相手に対する友人・知人の評価 10. 親など身内の健康上の理由 11. 子どもができたから 12. 結婚が前提の交際だった 13. その他	MA
問20. あなたに子どもはいらっしゃいますか？	1. いる・出産予定 ( )人 → 問21へ 2. いない → 問22へ	SA
問21. 問20で1. と答えた方 妊娠・出産に関して調べたことや不安に思ったことは何ですか？	1. 子どもが無事に生まれてくるか 2. いつどんな手続きをする必要があるのか 3. 妊娠・出産に関する、行政のサービス 4. 産婦人科や助産施設に関する情報 5. 妊娠・出産に関する悩みを相談できる人がいない 6. 妊娠・出産期の母子(胎児)の健康や病気に関する情報 7. 経済的な面で、この先やっていけるかどうかわからず不安 8. 医療費の還付申請 9. 特に困ったり不安や不便を感じたりしたことはない 10. その他	MA
問22. 問20で2. と答えた方 子どもを欲しいと思いますか？	1. 今すぐにでも欲しい → 問23へ 2. いずれは欲しい → 問23へ 3. 欲しい気持ちはある(あった)が、あきらめている → 問24へ 4. 欲しくない → 問24へ	SA
問23. 問22で1. 2と答えた方 何歳ぐらいまでに欲	1. 20代前半 2. 20代後半 3. 30代前半	SA

吉崎市地域少子化対策強化アンケート調査業務

設 問	選 択 肢	回答区分
しいと思いますか？	4. 30代後半 5. その他	
問24. 問22で3. 4と答えた方 あきらめている・欲しくない理由は何ですか？	1. 精神的・身体的負担が大きいから 2. 経済的負担が大きいから 3. 配偶者や自分の健康状態を考えると難しいから 4. 子どもが好きではない・苦手だから 5. 将来の社会に不安を感じるから 6. 自分や夫婦の時間や楽しみを優先させたいから 7. 配偶者が子どもを望んでいないから 8. 特に理由はない	MA
問25. あなたのお子さんの年齢をお答えください。 (第一子の年齢)	1. 3歳未満 → 問26へ 2. 3歳以上6歳未満(未就学) → 問26へ 3. 6歳以上(小学生以上) → 問27へ	SA
問26. 問25で1. 2. と答えた方 育児で困っていることは何ですか？	1. 自分の子育てが正しいかどうか不安 2. 自分子どもだけが成長が遅れているのではないかと不安 3. 生活のリズムが子ども中心となり大変 4. 子育ての悩みを相談できる人がいなかった 5. 経済的な面で、この先やっていけるかどうかわからず不安 6. 子どもを抱えたまま仕事を続けられるかが不安 7. 幼稚園・保育所に関する情報が得られず不安 8. 小児科医に関する情報が得られず不安 9. 市役所でいつどんな手続きをする必要があるのかわからない 10. 乳幼児を持つ親や子どもが、どんな役所のサービスを利用できるのかわからない 11. 子どもの遊び場が少ない 12. 子ども連れでの食事等の外出時は周りに気を使う等の心的負担がある 13. 医療費支給申請など、手続きが面倒 14. その他( ) 15. 特に困ったり不安や不便を感じたりしたことはなかった	MA
問27. 問25で3. と答えた方 育児で困っていることは何ですか？	1. 自分の子育てが正しいかどうか不安 2. 自分子どもだけが成長が遅れているので	MA

設 問	選 択 肢	回 答 区 分
	<p>はないかと不安</p> <p>3. 生活のリズムが子供中心となり大変</p> <p>4. 子育ての悩みを相談できる人がいなかった</p> <p>5. 経済的な面で、この先やっていけるかどうか わからず不安</p> <p>6. 子どもを抱えたまま仕事を続けられるかが不安 だった</p> <p>7. 小学校に関する情報が得られず不安だった</p> <p>8. 学童保育に関する情報が得られず不安だった</p> <p>9. 事前に(入学時期が近づくまで)、学童保育に 入れるかどうかわからず不安だった</p> <p>10. 小児科医に関する情報が得られず不安だっ た</p> <p>11. 市役所でいつどんな手続きをする必要があ るのかわからなかった</p> <p>12. 小学生以上の子どもや親が、どんな役所の サービスを利用できるのかわからない</p> <p>13. 子どもの遊び場が少ない</p> <p>14. 医療費支給申請など、手続きが面倒</p> <p>15. その他( )</p> <p>16. 特に困ったり不安や不便を感じたりしたこと はなかった</p>	
<p>問28. どのような情報やサービスがあると良いと思 いますか？</p>	<p>1. 自分にとっていつどんな手続きが必要かが一 覧でわかる</p> <p>2. いつどんなサービスが利用できるかが事前に わかる</p> <p>3. 自分が利用できるサービスについて個別のお 知らせが来る</p> <p>4. インターネットで役所の手続きができる</p> <p>5. インターネットで必要な書類が入手(ダウンロ ード)できる</p> <p>6. 役所や複数の行政機関への手続きが一つの 窓口でできる</p> <p>7. 休日や早朝・夜間に役所の手続きができる</p> <p>8. 役所が個別の相談に応じてくれる</p> <p>9. 必要なときにいつでも預けられる保育サービ ス</p>	<p>MA</p>

吉崎市地域少子化対策強化アンケート調査業務

設 問	選 択 肢	回 答 区 分
	10. 職場に託児所がある 11. 職場の育児勤務制度と制度を利用できる支援体制 12. 専門家が個別の相談に応じてくれる 13. 子どもを連れて気軽に集まれる場所がある 14. 体験者の口コミ情報が得られる 15. 父親に対する子育て教室 16. その他	
問29. あなたの理想では子どもは何人欲しいですか？	1. 1人    2. 2人    3. 3人    4. 4人以上	SA
問30. 現実的に考えて子どもは何人までだと思いますか？	1. 1人    2. 2人    3. 3人    4. 4人以上	SA
問31. 問29と問30の子どもの数の差が生じるのはなぜですか？その理由をお書きください		FA





## 第2章 調査結果



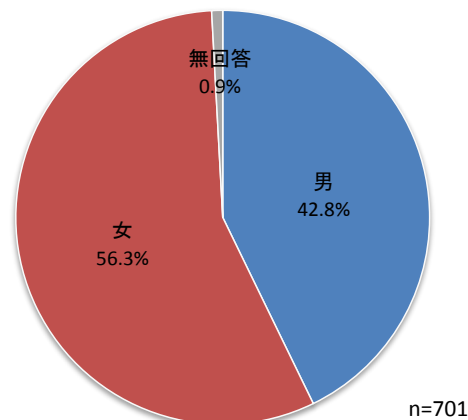
## 第2章 調査結果

### 1. 対象者の基本属性

#### 問1. 性別

項目	件数	%
男	300	42.8
女	395	56.3
無回答	6	0.9
合計	701	100.0

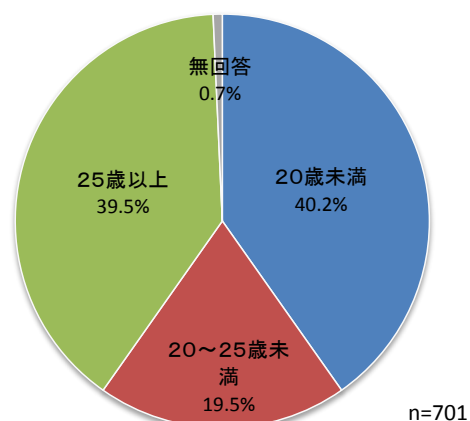
性別は、男性 42.8%、女性 56.3%とやや女性の割合が高い。



#### 問2. 年齢

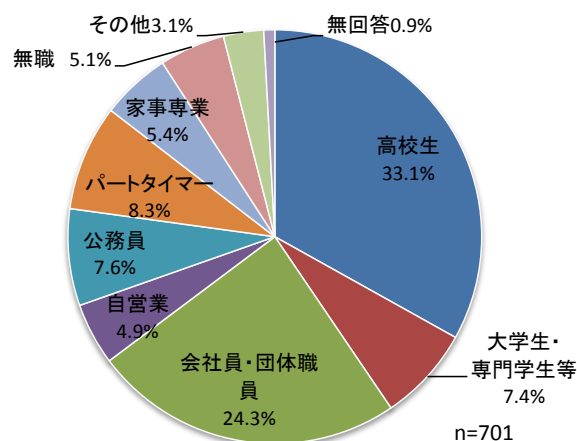
項目	件数	%
20歳未満	282	40.2
20～25歳未満	137	19.5
25歳以上	277	39.5
無回答	5	0.7
合計	701	100.0

年齢は、「20歳未満」40.2%、「25歳以上」39.5%、「20～25歳未満」19.5%となっている。



問3. 職業

項目	件数	%
高校生	232	33.1
大学生・専門学生等	52	7.4
会社員・団体職員	170	24.3
自営業	34	4.9
公務員	53	7.6
パートタイマー	58	8.3
家事専業	38	5.4
無職	36	5.1
その他	22	3.1
無回答	6	0.9
合計	701	100.0

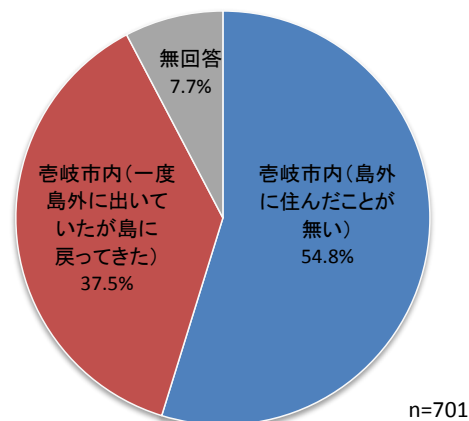


職業は、「高校生」が33.1%で最も多く、次いで「会社員・団体職員」24.3%、「パートタイマー」8.3%、「公務員」7.6%と続いている。

問4. 現在の住まいの状況

項目	件数	%
吉崎市内(島外に住んだことが無い)	384	54.8
吉崎市内(一度島外に出ていたが島に戻ってきた)	263	37.5
無回答	54	7.7
合計	701	100.0

現在の住まいの状況は、「島外に住んだことが無い」54.8%、「一度島外に出ていたが島に戻ってきた」37.5%と「島外に住んだことが無い」の割合が高い。

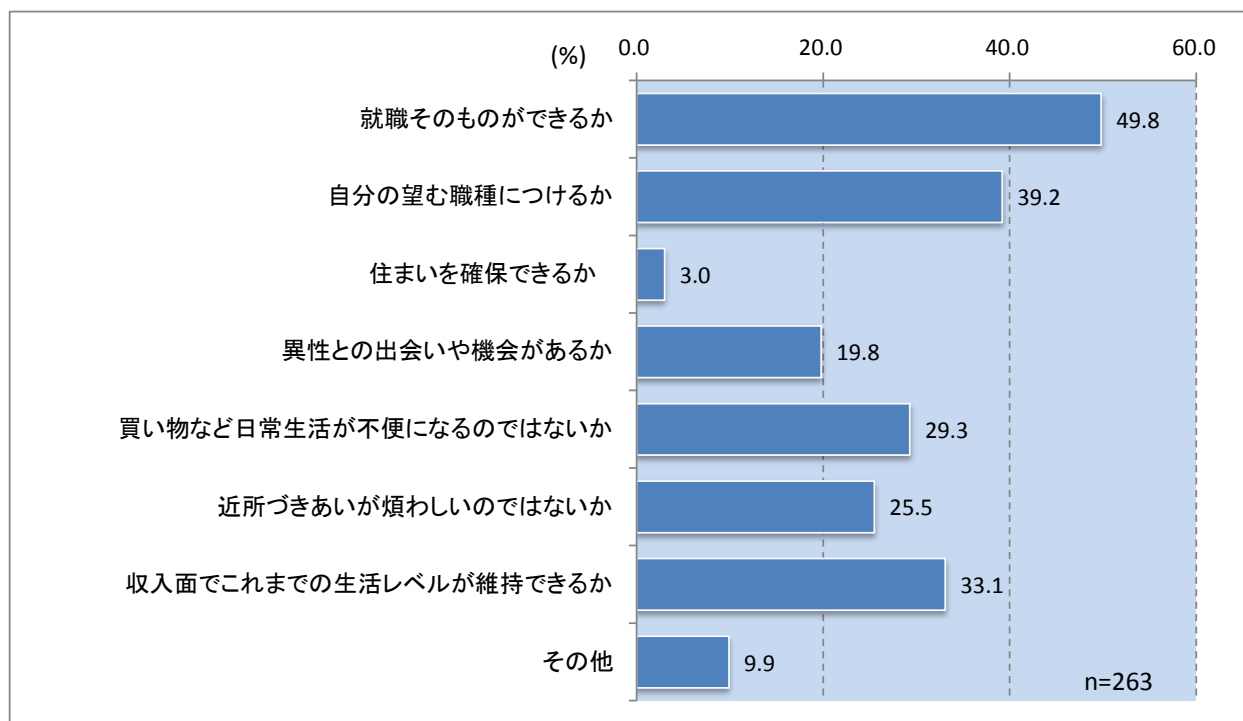


## 2. 吉崎市で暮らすことについて

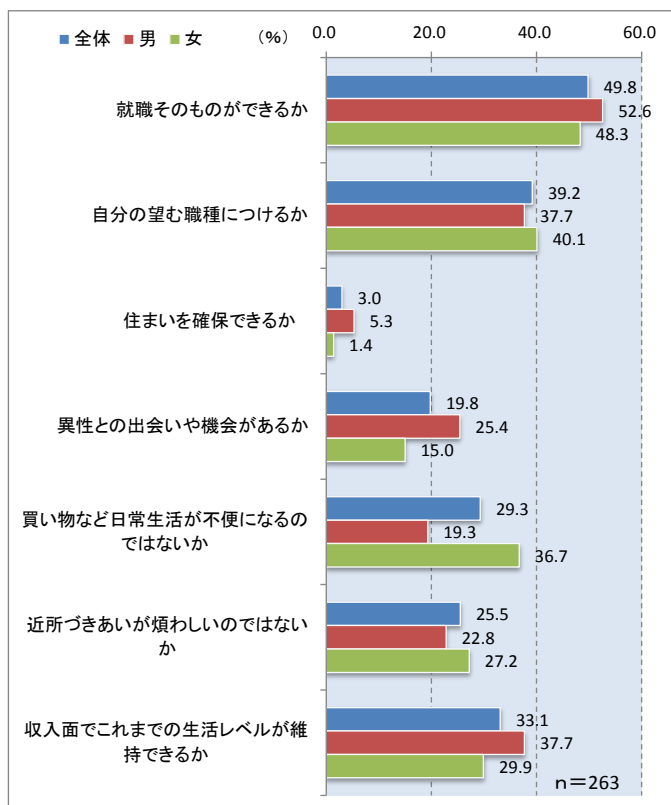
問5. 吉崎市に戻ったとき、または戻ろうかと考えた時に不安に感じたこと

「就職そのものができるか」が約5割。

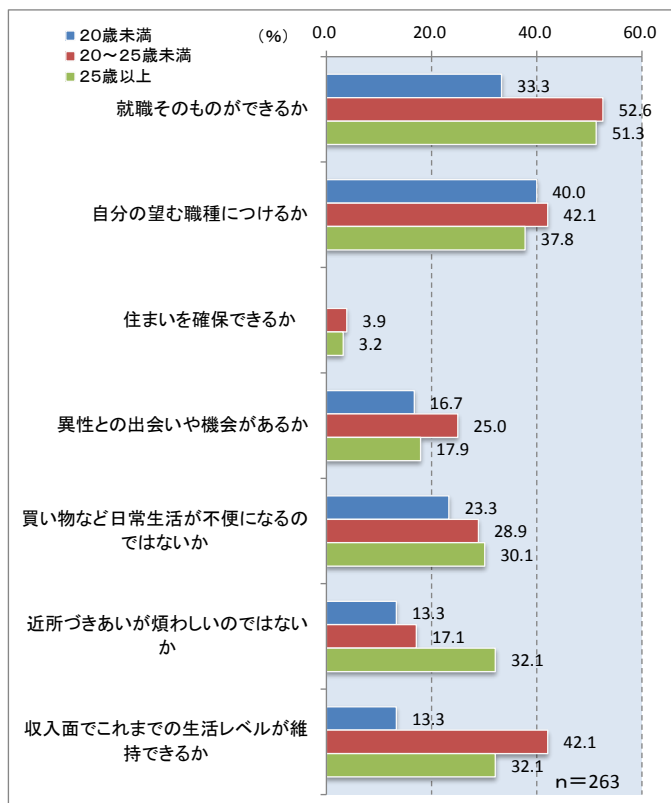
全体傾向		「就職そのものができるか」が49.8%で最も多く、次いで「自分の望む職種につけるか」39.2%、「収入面でこれまでの生活レベルが維持できるか」33.1%と続いている。
クロス	男女別	男女別の傾向では、女性は「買い物など日常生活が不便になるのではないか」が36.7%で3位となっている。
	年代別	20～25歳未満・25歳以上ともに就職に関する「就職そのものができるか」・「自分の望む職種につけるか」の2項目で全体平均を上回っている。また、20～25歳未満では「収入面でこれまでの生活レベルが維持できるか」の項目が年代別の中で最も高くなっている。



(1) 男女別



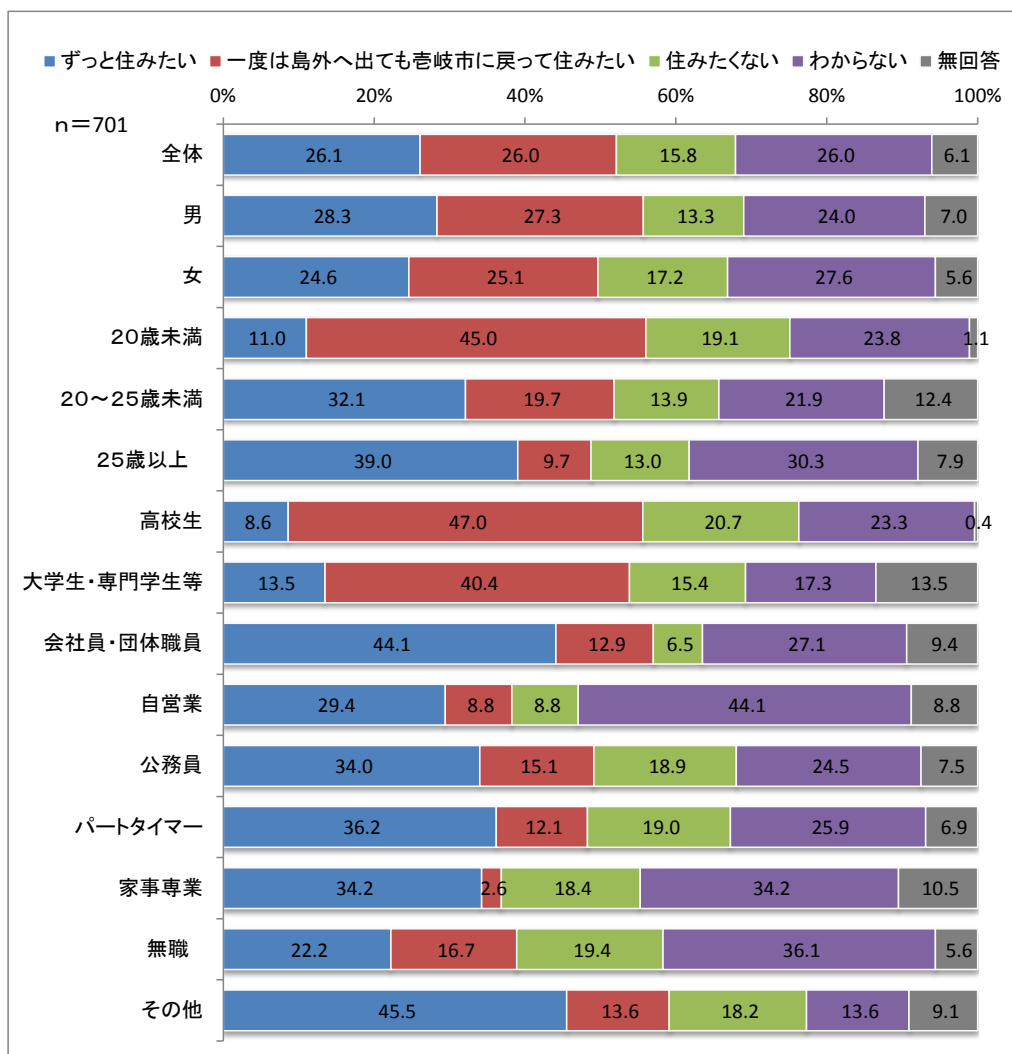
(2) 年齢別



問6. 吉崎市への居住意向

「ずっと住みたい」・「一度は島外へ出て吉崎市に戻って住みたい」は 52.1%。

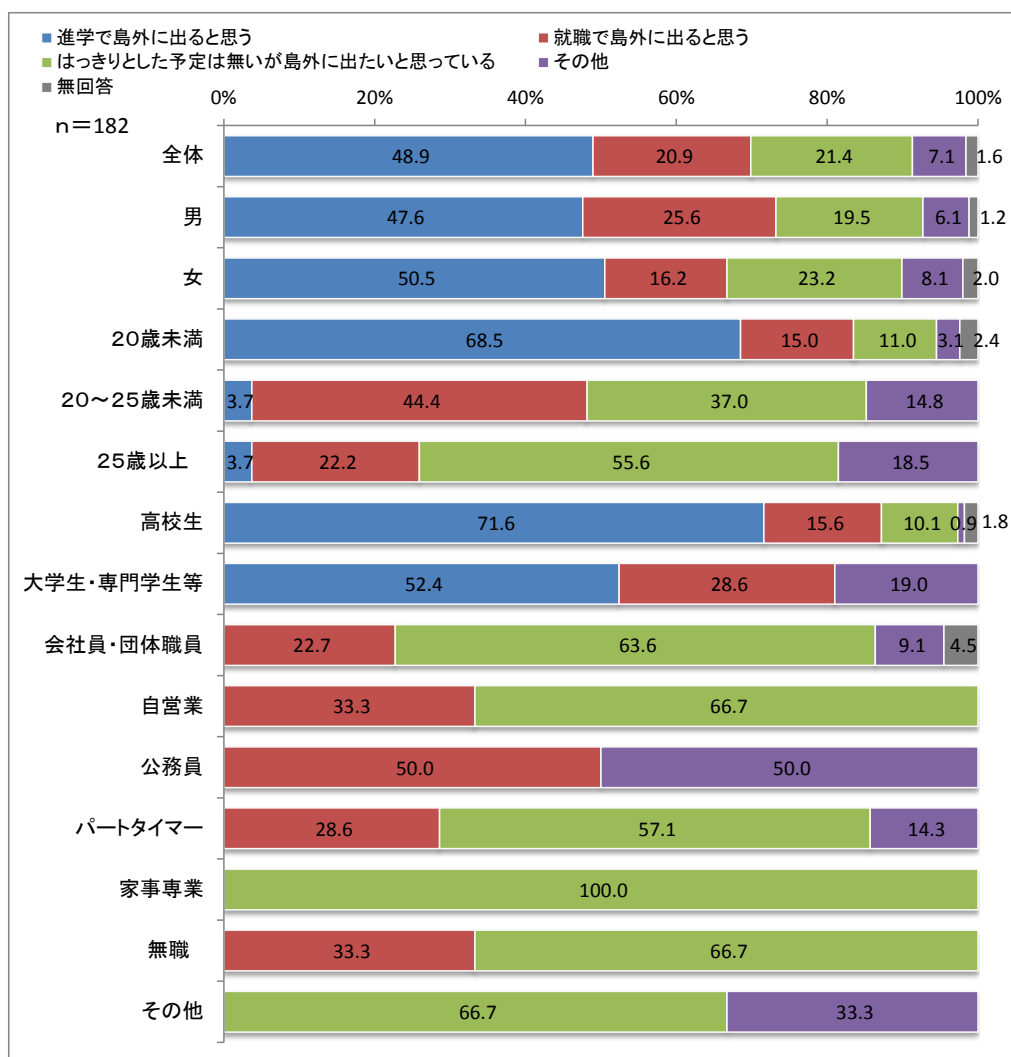
全体傾向	居住意向の回答は、「ずっと住みたい」が 26.1%で最も多く、次いで「一度は島外へ出て吉崎市に戻って住みたい」・「わからない」 26.0%、「住みたくない」 15.8%の順となっている。	
クロス	男女別	男女別では全体との大きな相違は見られない。
	年代別	20歳未満で「一度は島外へ出て吉崎市に戻って住みたい」が 45.0%で1位となっている。
	職業別	高校生・大学生・専門学生等が「一度は島外へ出て吉崎市に戻って住みたい」 47.0%・40.4%で1位となっている。



問6. 吉崎市への居留意向  
(1) 島外に出る理由

「進学で島外に出ると思う」等目的のあるものが約7割。

全体傾向	島外に出る理由としての回答は、「進学で島外に出ると思う」が48.9%で最も多く、次いで「はっきりとした予定は無いが島外に出たいと思っている」21.4%、「就職で島外に出ると思う」20.9%、「その他」7.1%の順となっている。	
クロス	男女別	「就職で島外に出ると思う」は男性が女性よりも9.2ポイント高い。
	年代別	20歳未満で「進学で島外に出ると思う」が68.5%、20～25歳未満は「就職で島外に出ると思う」が44.4%、25歳以上は「はっきりとした予定は無いが島外に出たいと思っている」が55.6%で1位となっている。
	職業別	高校生・大学生・専門学生等が「進学で島外に出ると思う」・「就職で島外に出ると思う」と目標を持った理由で約8割以上であるのに対し、他の職業は「はっきりとした予定は無いが島外に出たいと思っている」「その他」で5割を超えている。

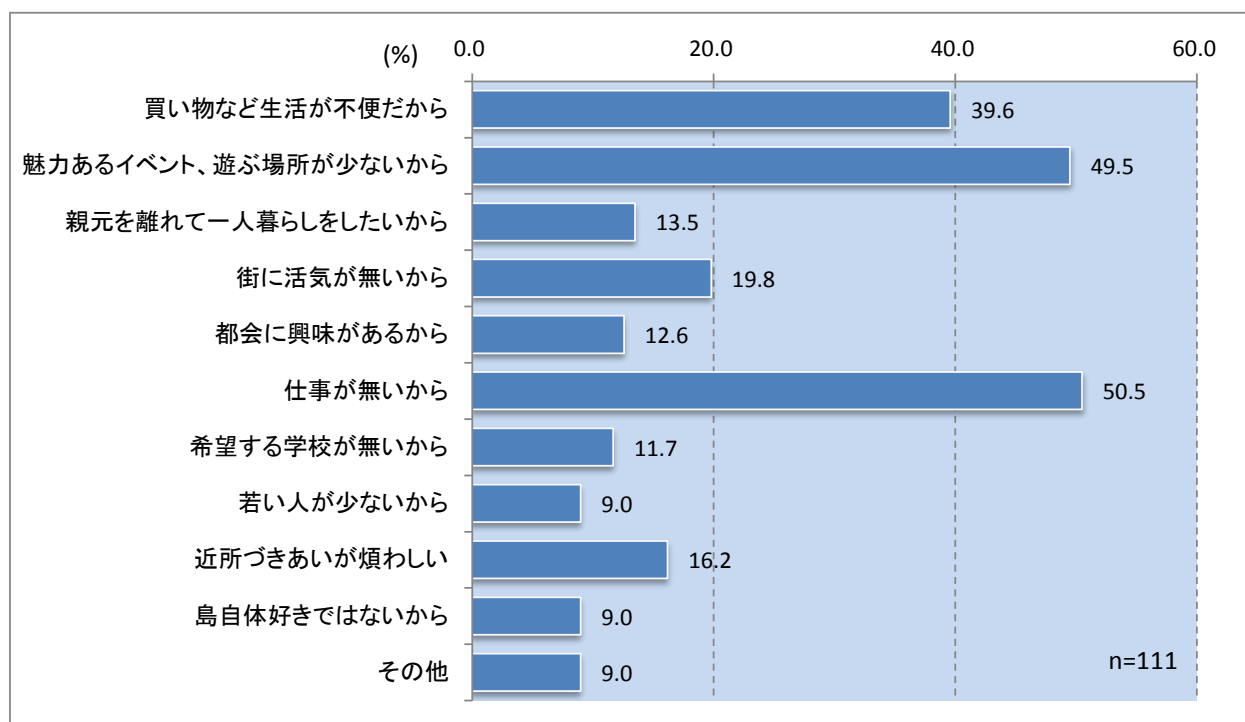




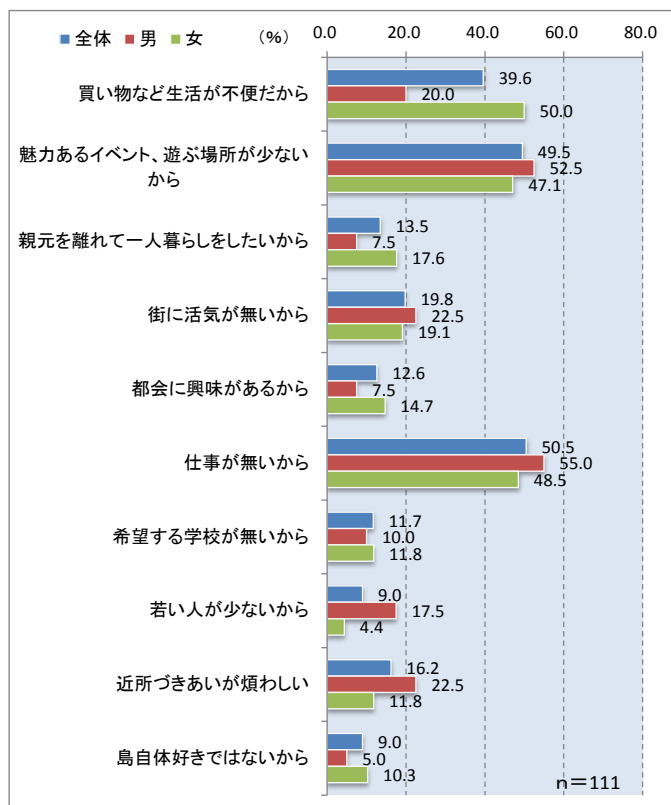
問6. 吉崎市への居住意向  
(2) 住みたくない理由

「仕事がないから」が約5割。

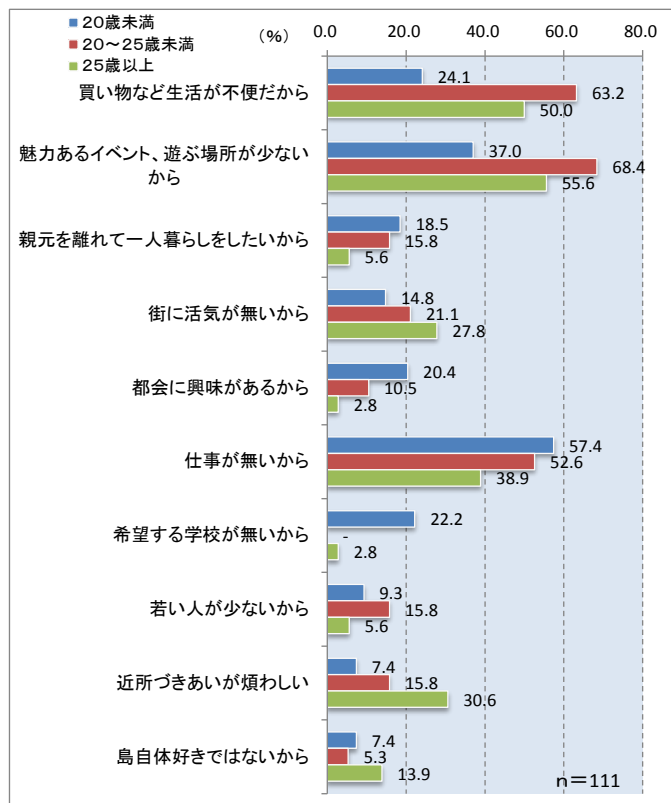
全体傾向	「仕事がないから」が50.5%で最も多く、次いで「魅力あるイベント、遊ぶ場所が少ないから」49.5%、「買い物など生活が不便だから」39.6%と続いている。
クロス	男女別 男女別の傾向では、女性は「買い物など生活が不便だから」が50.0%で1位となっている。
クロス	年代別 20歳未満・25歳以上ともに就職に関する「魅力あるイベント、遊ぶ場所が少ないから」・「買い物など生活が不便だから」の1・2位となっている。また、20歳未満では「仕事がないから」が平均を上回り1位となっている。



(1) 男女別



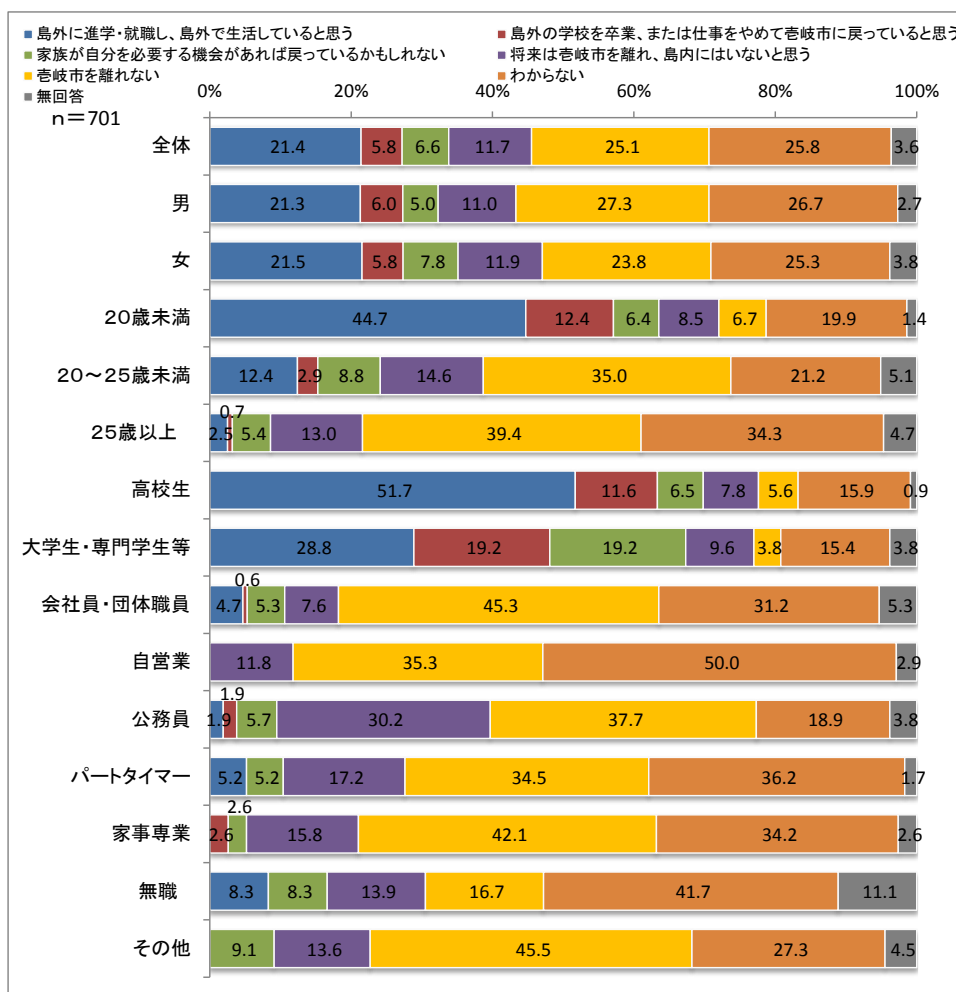
(2) 年齢別



問7. 将来の居住状況

「吉崎市を離れない」等吉崎市への居留意向があるものが約4割。

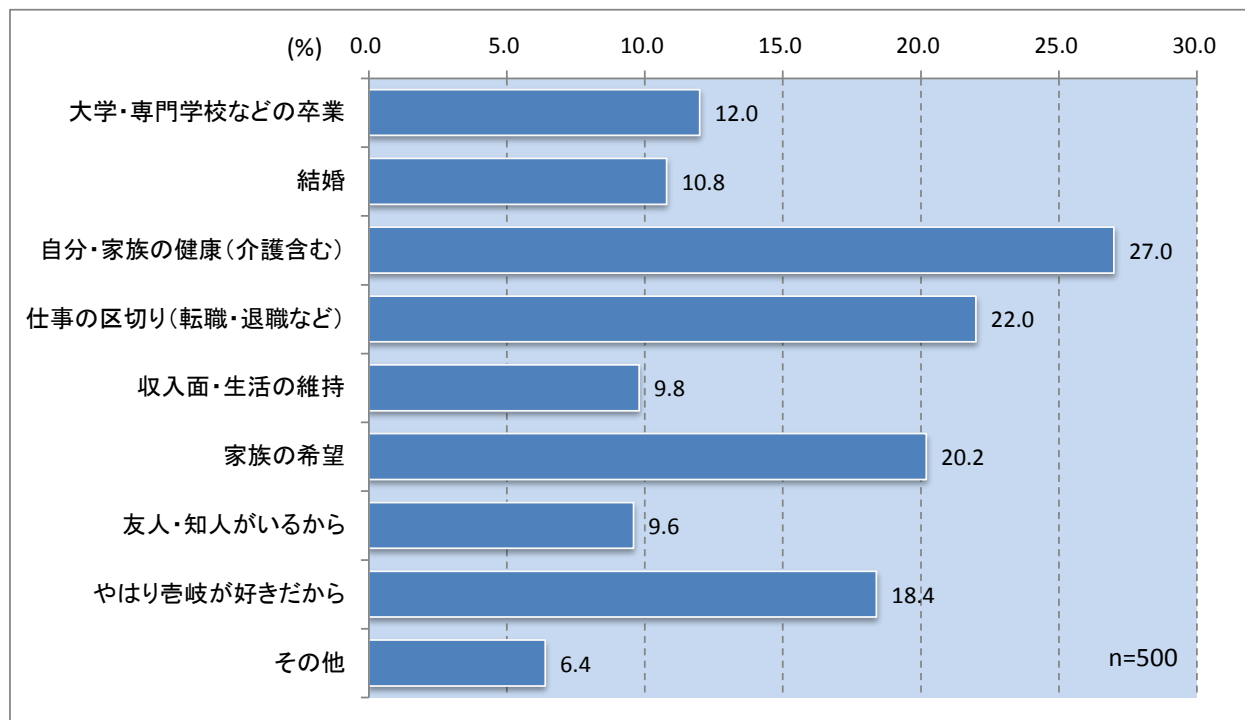
全体傾向	将来の吉崎市への居留意向の回答は、「わからない」が25.8%で最も多く、次いで「吉崎市を離れない」25.1%、「島外に進学・就職し、島外で生活していると思う」21.4%と続いている。	
クロス	男女別	男女別では全体との大きな相違は見られない。
	年代別	20歳未満で「島外に進学・就職し、島外で生活していると思う」が44.7%、20～25歳未満・25歳以上は「吉崎市を離れない」が35.0%・39.4%で1位となっている。
	職業別	高校生・大学生・専門学生等が「島外に進学・就職し、島外で生活していると思う」が1位、自営業・パートタイマー・無職は「わからない」が1位、他の職業は「吉崎市を離れない」が1位となっている。



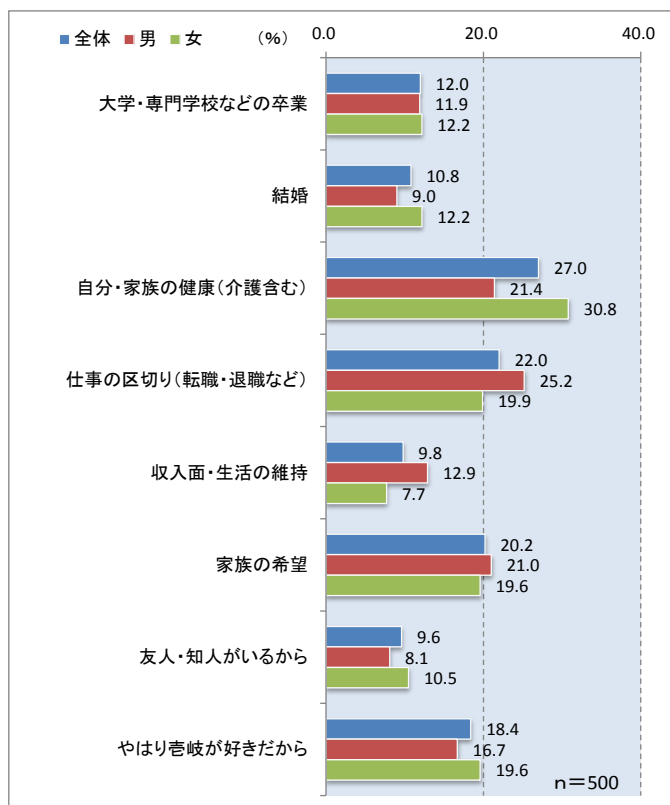
問8. 吉岐市に戻るきっかけ

**「自分・家族の健康(介護含む)」・「仕事の区切り(転職・退職など)」で約5割。**

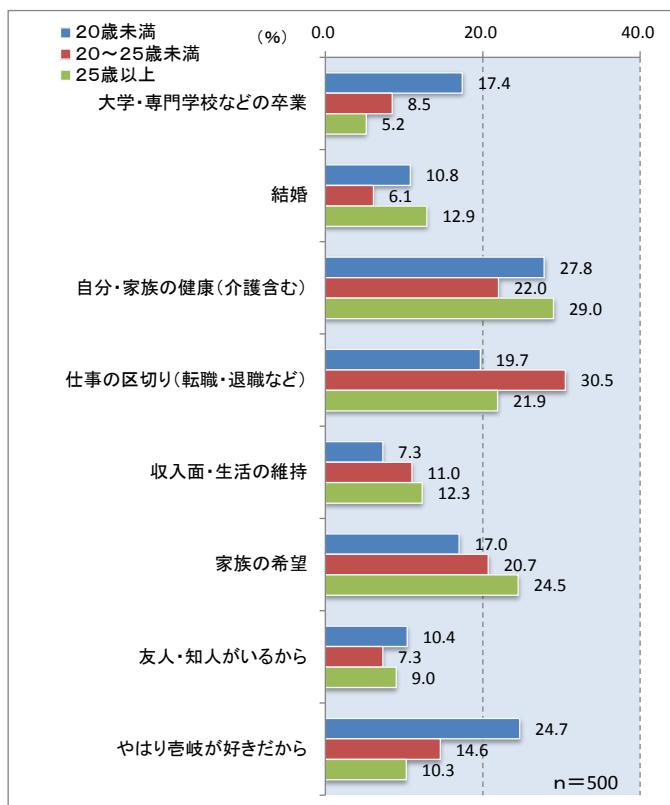
全体傾向	「自分・家族の健康（介護含む）」が27.0%で最も多く、次いで「仕事の区切り（転職・退職など）」22.0%、「家族の希望」20.2%と続いている。	
クロス	男女別	男女別の傾向では、女性は「自分・家族の健康（介護含む）」が30.8%で1位、男性は「仕事の区切り（転職・退職など）」が25.2%で1位となっている。
	年代別	20歳未満・25歳以上ともに「自分・家族の健康（介護含む）」が1位また、20～25歳未満では「仕事の区切り（転職・退職など）」が1位となっている。また、年代別での相違が表れているのは20歳未満で「やはり吉岐が好きだから」24.7%で2位となっている。



(1) 男女別



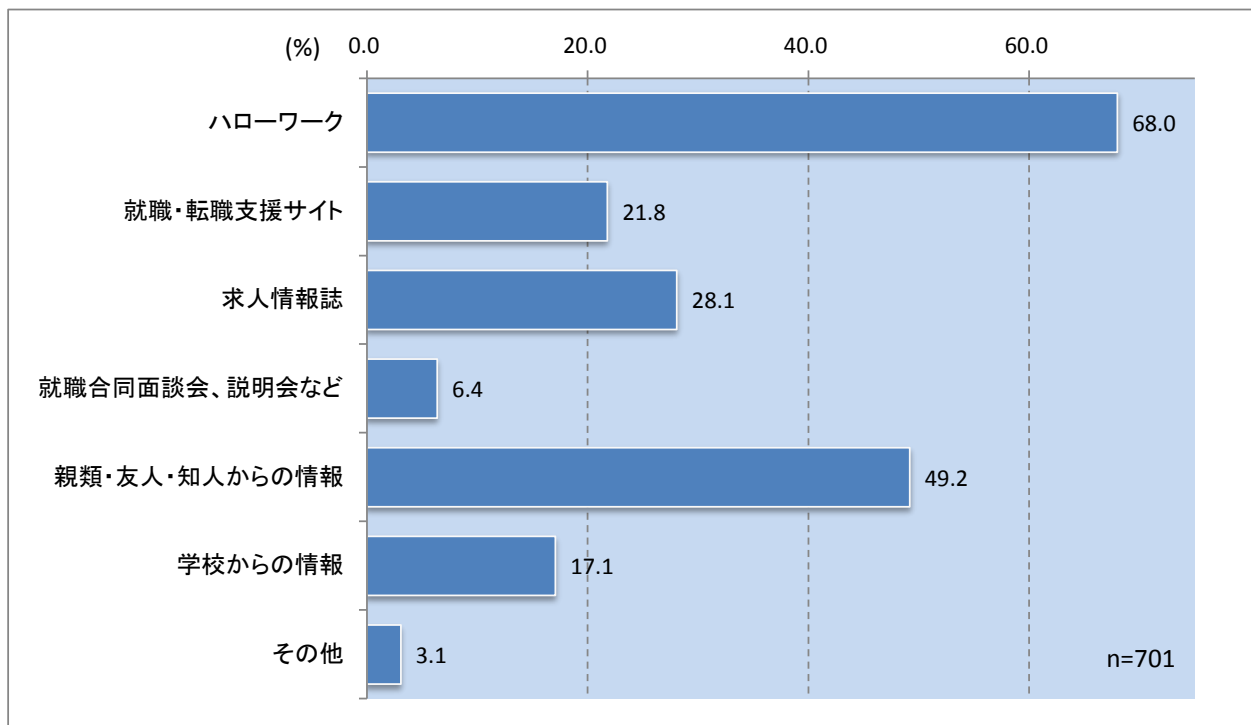
(2) 年齢別



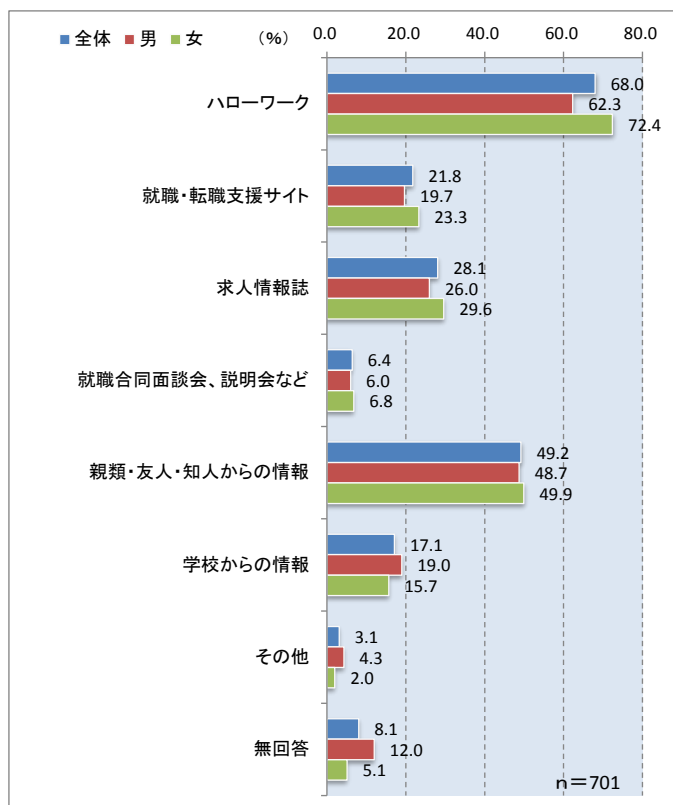
問9. 吉崎市での就職を考える場合に利用すると思われるもの

「ハローワーク」が約7割、「親類・友人・知人からの情報」が約5割。

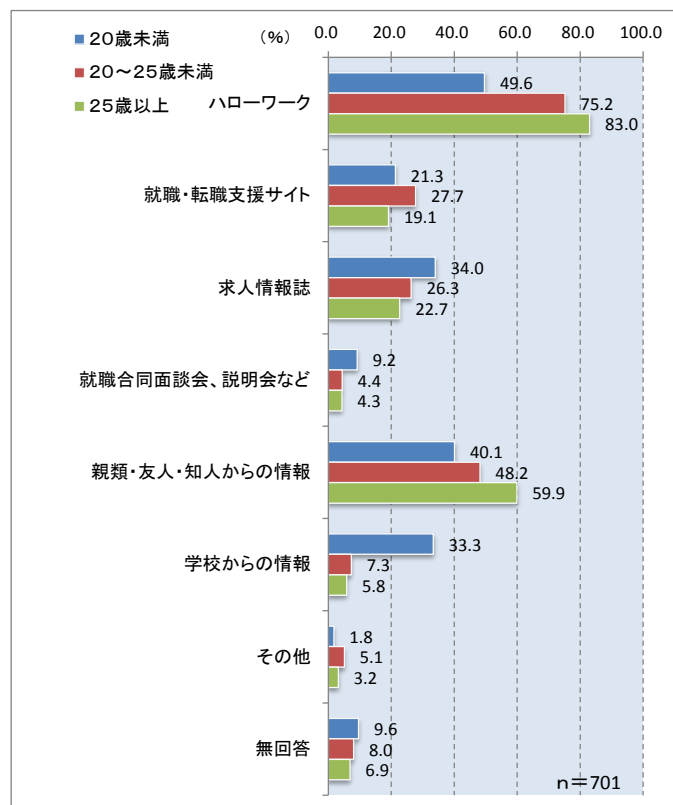
全体傾向	「ハローワーク」が68.0%で最も多く、次いで「親類・友人・知人からの情報」49.2%、「求人情報誌」28.1%と続いている。	
クロス	男女別	男女別では全体との大きな相違は見られない。
	年代別	年代別で全体との大きな相違は見られないが、20～25歳未満で「求職・転職支援サイト」が27.7%で3位、また、20歳未満で「学校からの情報」が33.3%と他の年齢を26ポイント以上高くなっている。



(1) 男女別



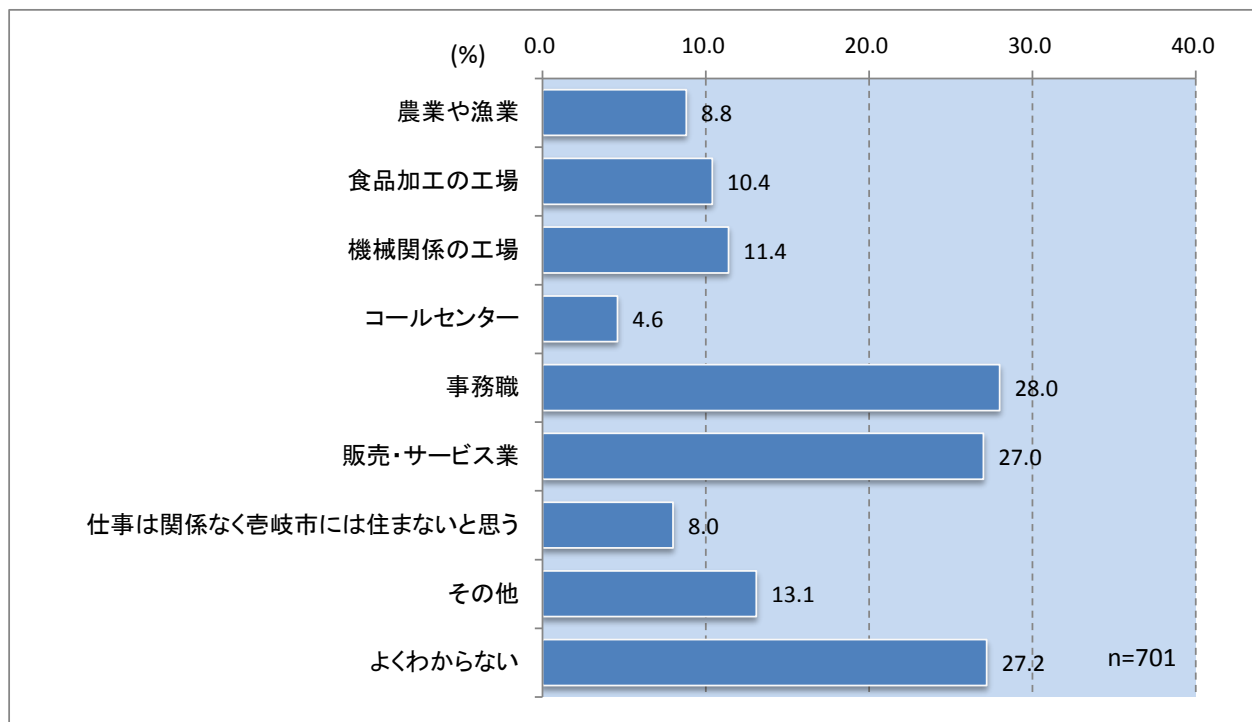
(2) 年齢別



問10. どのような仕事があれば壱岐市に住み続けると思うか。

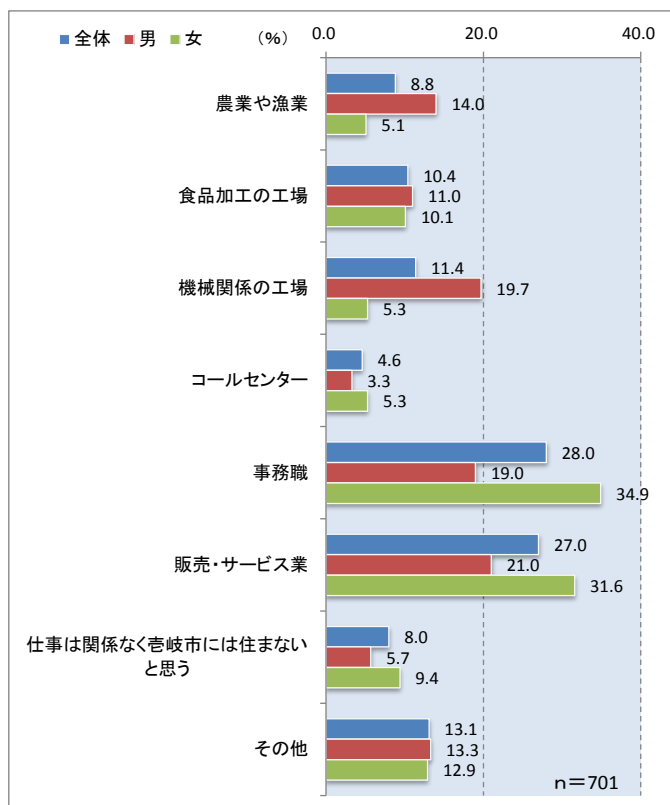
**「事務職」・「販売・サービス業」で約6割。**

全体傾向	「事務職」が28.0%で最も多く、次いで「販売・サービス業」27.0%、「機械関係の工場」11.4%と続いている。	
クロス	男女別	男女別では、女性は「事務職」・「販売・サービス業」のニーズが男性より高く、男性は「機械関係の工場」・「農業や漁業」・「食品加工の工場」のニーズが女性よりも高い。
	年代別	年代別で全体との大きな相違は見られない。

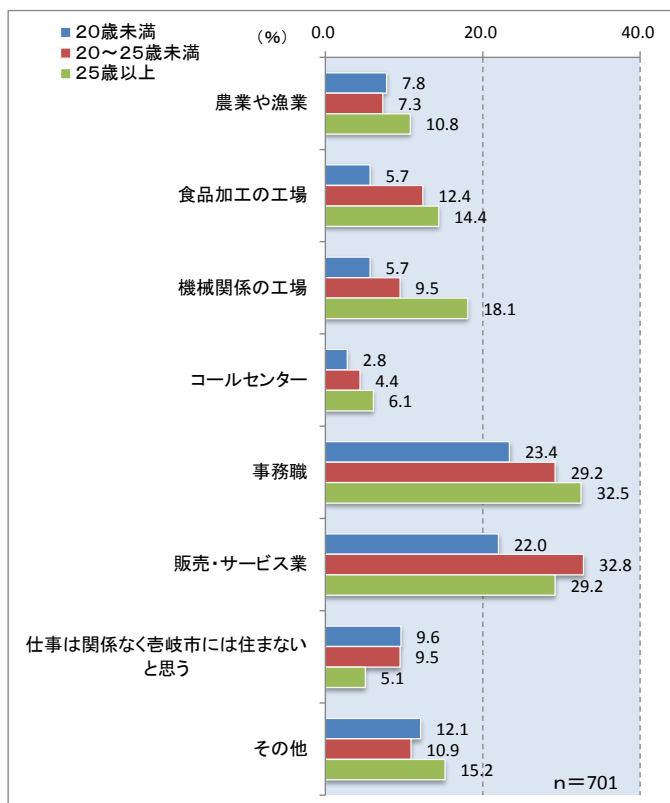




(1) 男女別



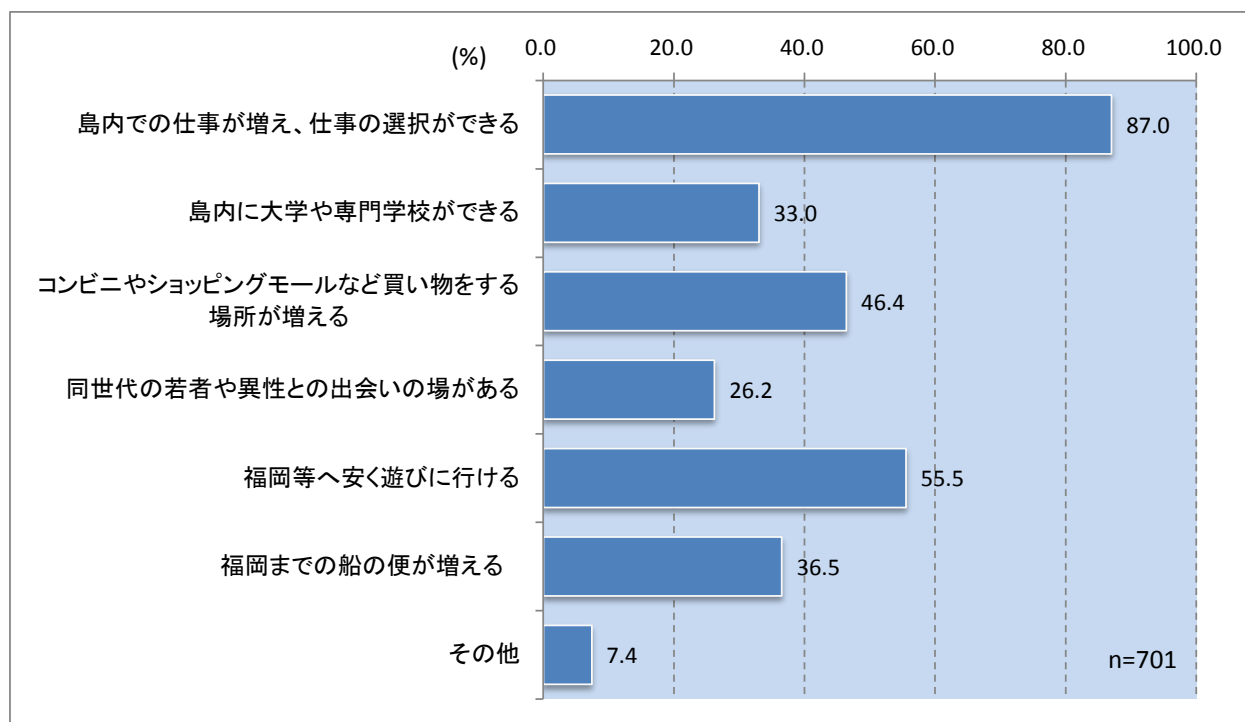
(2) 年齢別



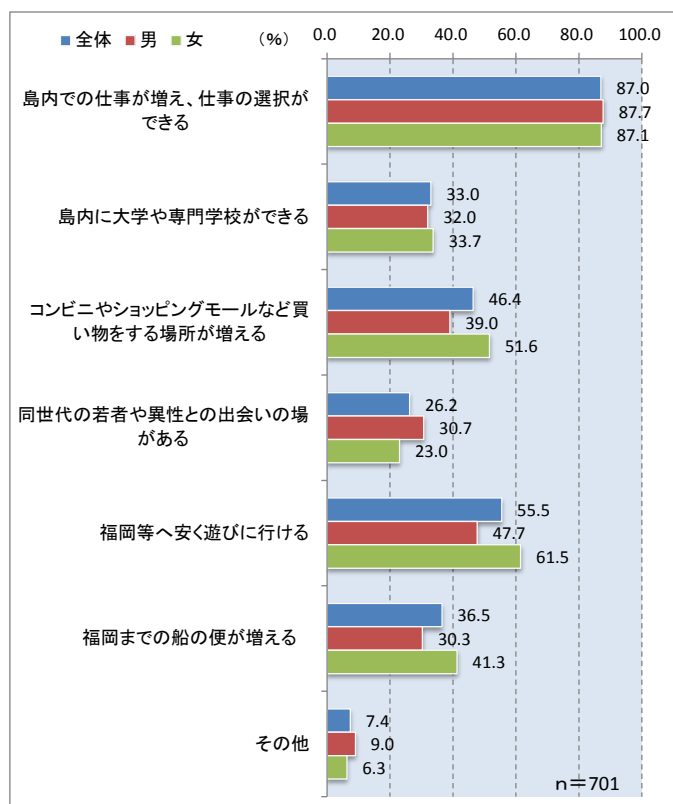
問 1 1. 吉崎市がどのようになれば若者が島外に出なくなると思うか

**「島内での仕事が増え、仕事の選択ができる」が約 9 割。**

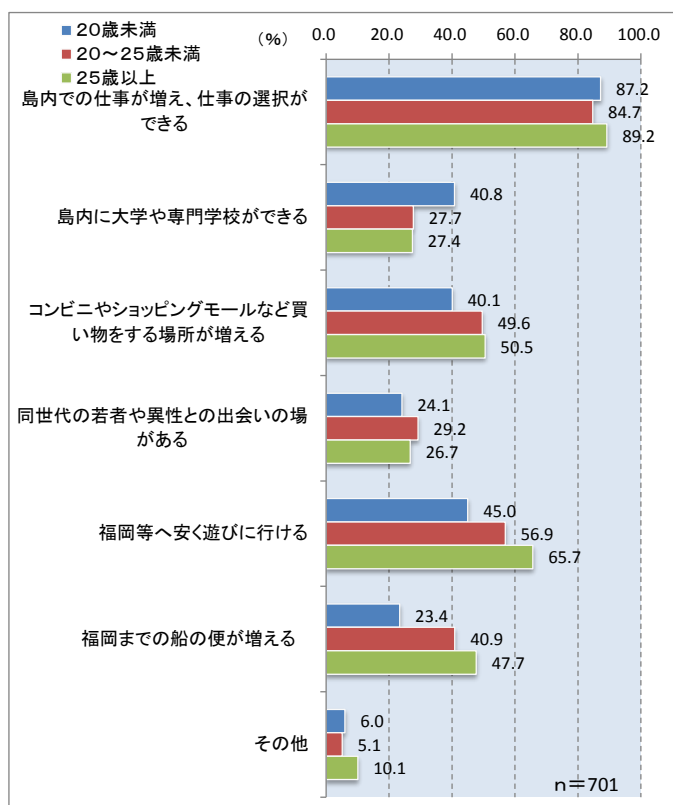
全体傾向	「島内での仕事が増え、仕事の選択ができる」が 87.0%で最も多く、次いで「福岡等へ安く遊びに行ける」55.5%、「コンビニやショッピングモールなど買い物をする場所が増える」46.4%と続いている。	
クロス	男女別	男女別で全体との大きな相違は見られない。
クロス	年代別	年代別では、「福岡等へ安く遊びに行ける」、「コンビニやショッピングモールなど買い物をする場所が増える」、「福岡までの船の便が増える」の項目は年代が上がるごとに高くなっている。また、20歳未満では「島内に大学や専門学校ができる」が40.8%で3位となっている。



(1) 男女別



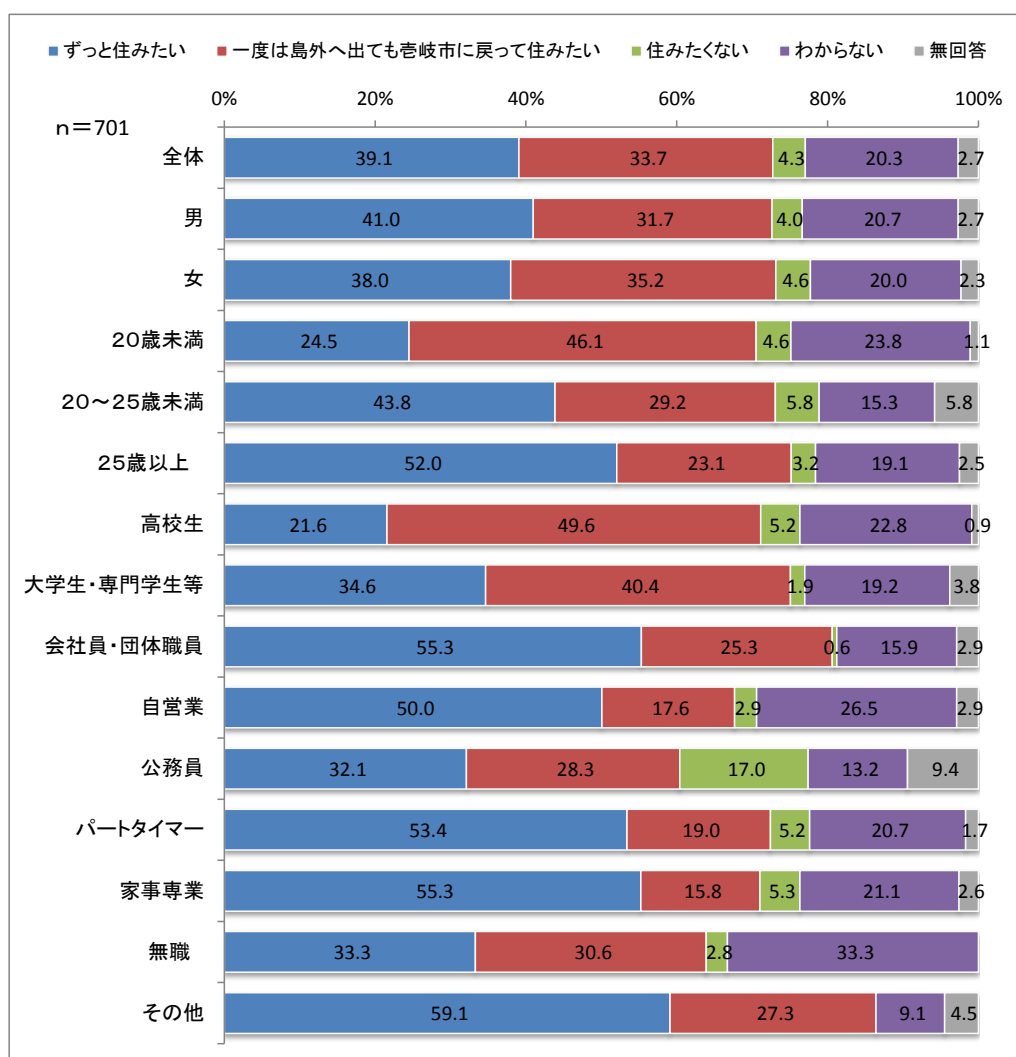
(2) 年齢別



問 1 2. 問 1 1 が実現したらあなたは島に残ると思うか。

「ずっと住みたい」・「一度は島外へ出て壱岐市に戻って住みたい」で約 7 割。

全体傾向	「ずっと住みたい」が 39.1%で最も多く、次いで「一度は島外へ出て壱岐市に戻って住みたい」33.7%、「わからない」20.3%と続き、「住みたくない」は 4.3%であった。
男女別	男女別では全体との大きな相違は見られない。
クロス 年代別	年代別で、「ずっと住みたい」・「一度は島外へ出て壱岐市に戻って住みたい」で約 7 割は変わらないが、20 歳未満で「島一度は島外へ出て壱岐市に戻って住みたい」が 46.1%、20～25 歳未満・25 歳以上は「ずっと住みたい」が 43.8%・52.0%で 1 位となっている。
職業別	高校生・大学生・専門学生等が「島一度は島外へ出て壱岐市に戻って住みたい」が 1 位、他の職業は「ずっと住みたい」が 1 位となっている。

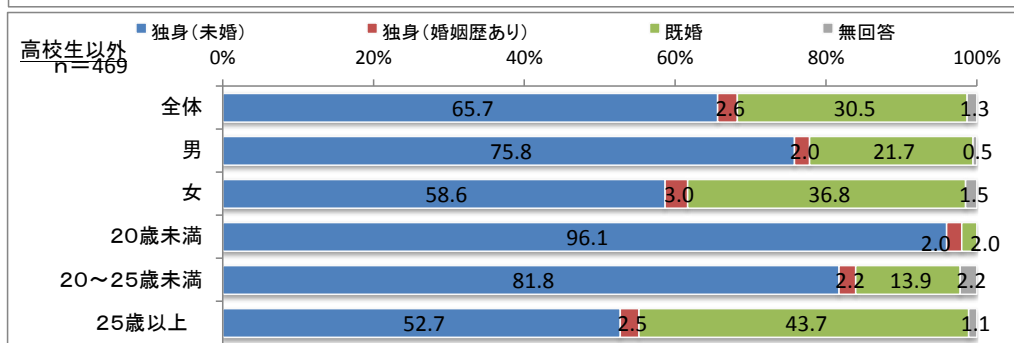
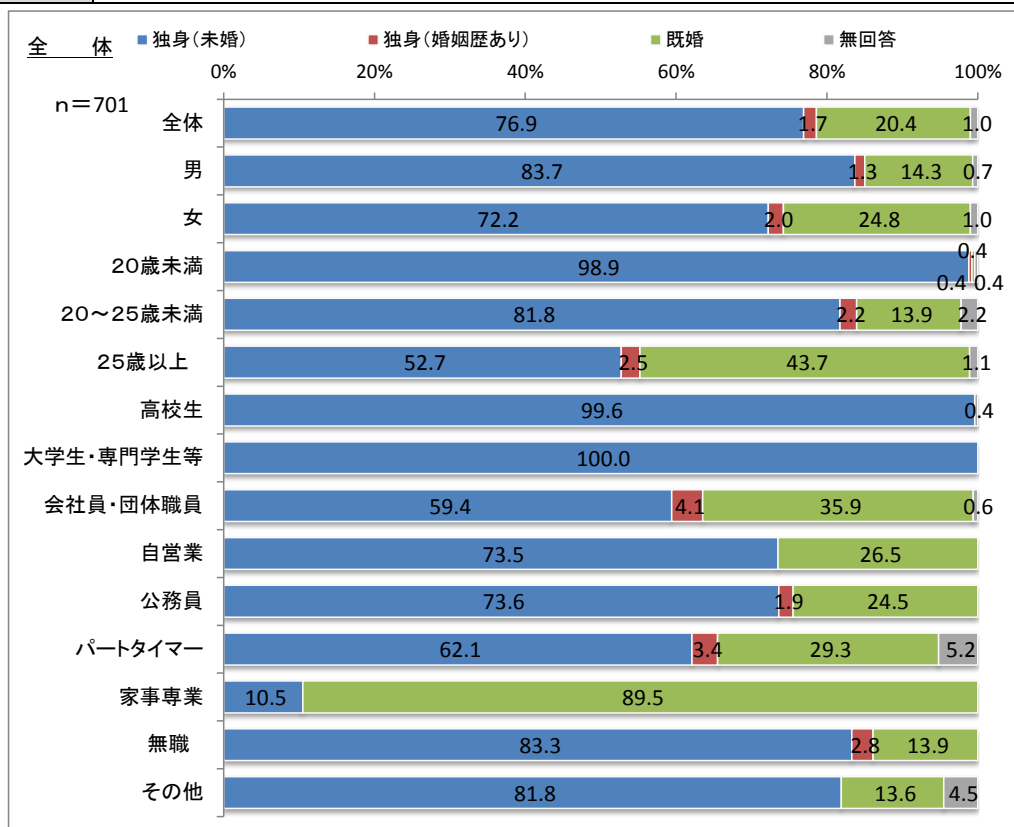


### 3. 結婚について

問13. 現在結婚しているか。

**全体で約8割、高校生以外で約7割が「独身(未婚)」。**

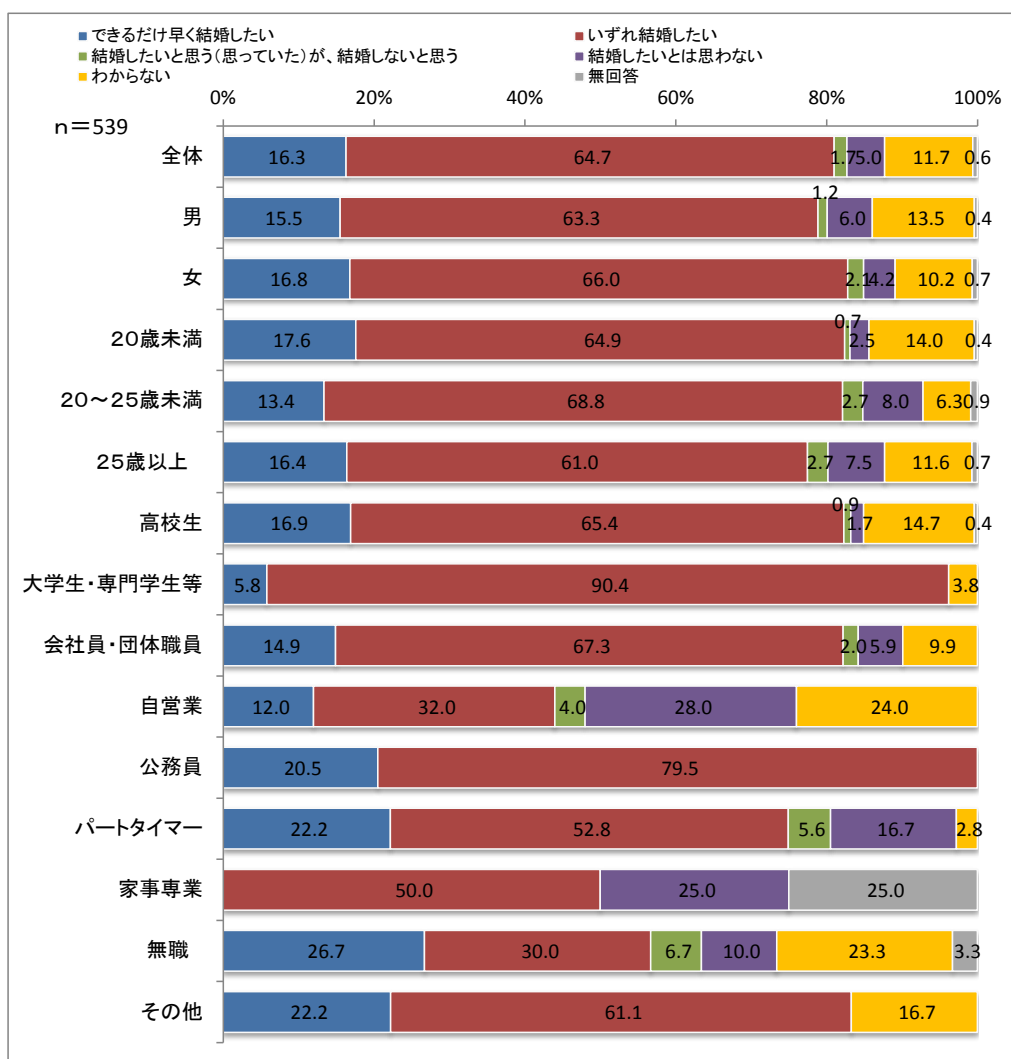
全体傾向	全体集計は「独身(未婚)」が76.9%(65.7%)で最も多く、次いで「既婚」20.4%(30.5%)、「独身(婚姻歴あり)」1.7%(2.6%)であった。 ※高校生以外は( )内表示	
クロス	男女別	男女別では、男性の未婚率が11.5(17.2%)ポイント高かった。
	年代別	年代別では、年代が上がるごとに既婚率が高くなっている。
	職業別	家事専業が89.5%で既婚率が最も高く、次いで「会社員・団体職員」が35.9%で続いている。



問14. 現在の結婚に関する考え。

**結婚の意向有が約8割。**

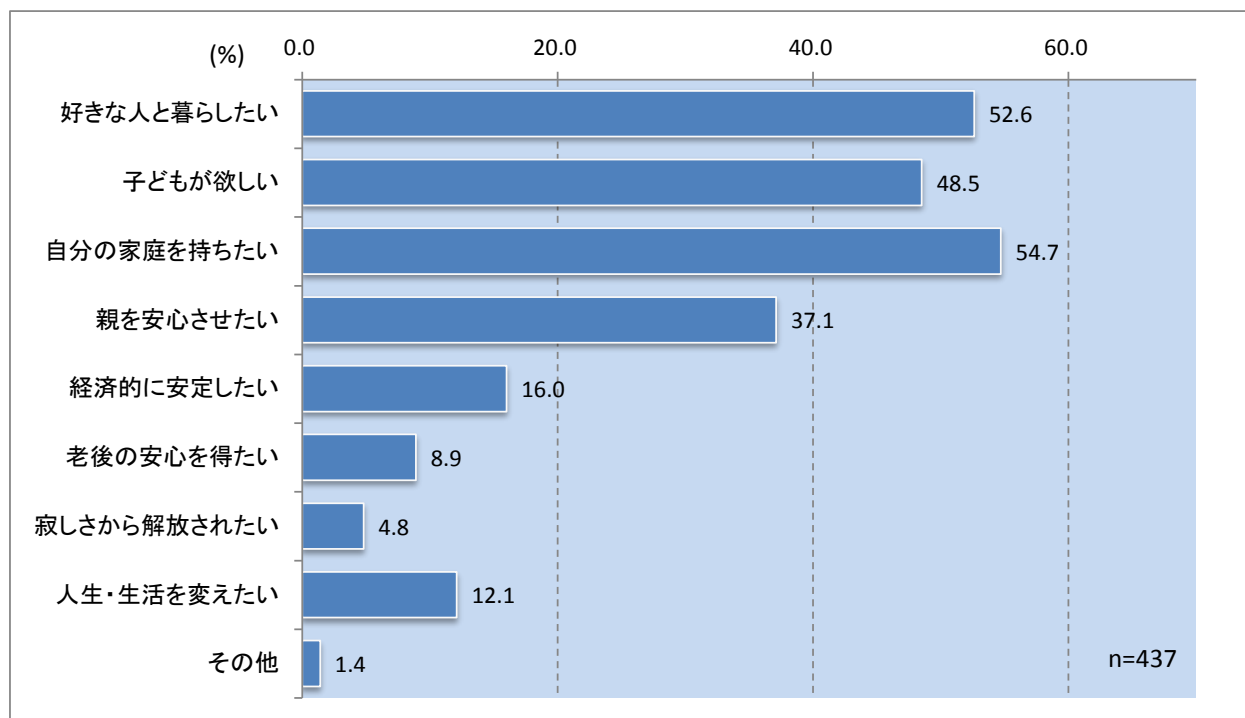
全体傾向	「いずれ結婚したい」が64.7%で最も多く、次いで「できるだけ早く結婚したい」16.3%、「わからない」11.7%と続いている。	
クロス	男女別	男女別では全体との大きな相違は見られない。
	年代別	年代別では、年代が上がるごとに婚姻の意向（「いずれ結婚したい」+「できるだけ早く結婚したい」）が低くなっている。
	職業別	「自営業」・「家事専業」婚姻の意向が5割以下となっている。



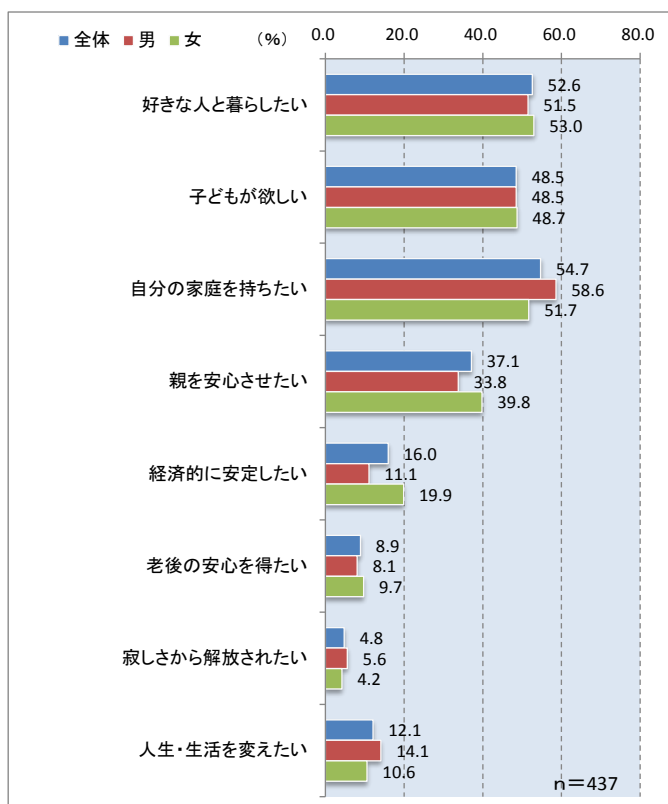
問15. 結婚したい理由。

「自分の家庭を持ちたい」・「好きな人と暮らしたい」が5割超。

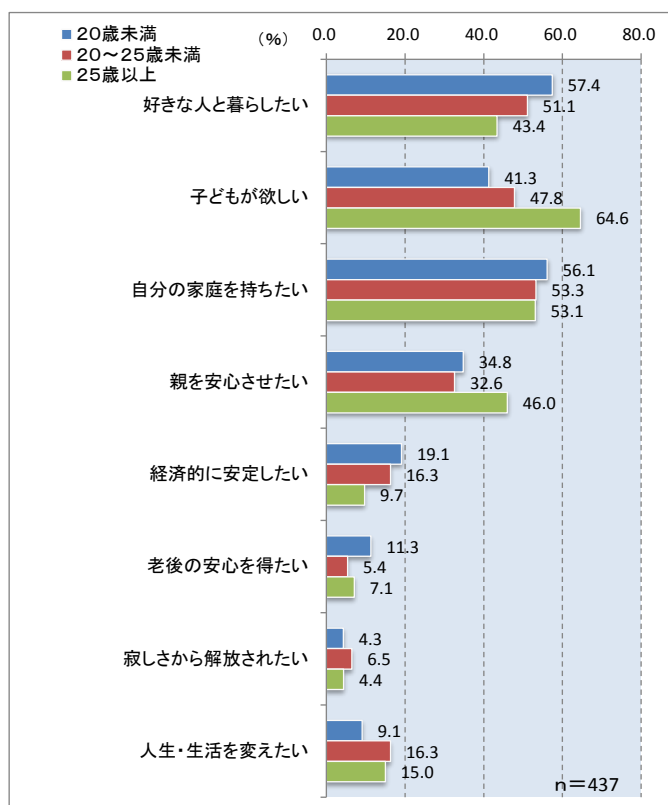
全体傾向		「自分の家庭を持ちたい」が54.7%で最も多く、次いで「好きな人と暮らしたい」52.6%、「子どもが欲しい」48.5%と続いている。
クロス	男女別	男女別では全体との大きな相違は見られない。
	年代別	年代別では、年代が上がるごとに「子どもが欲しい」の割合が高くなっており、「好きな人と暮らしたい」「自分の家庭を持ちたい」の割合が低くなっている。



(1) 男女別



(2) 年齢別

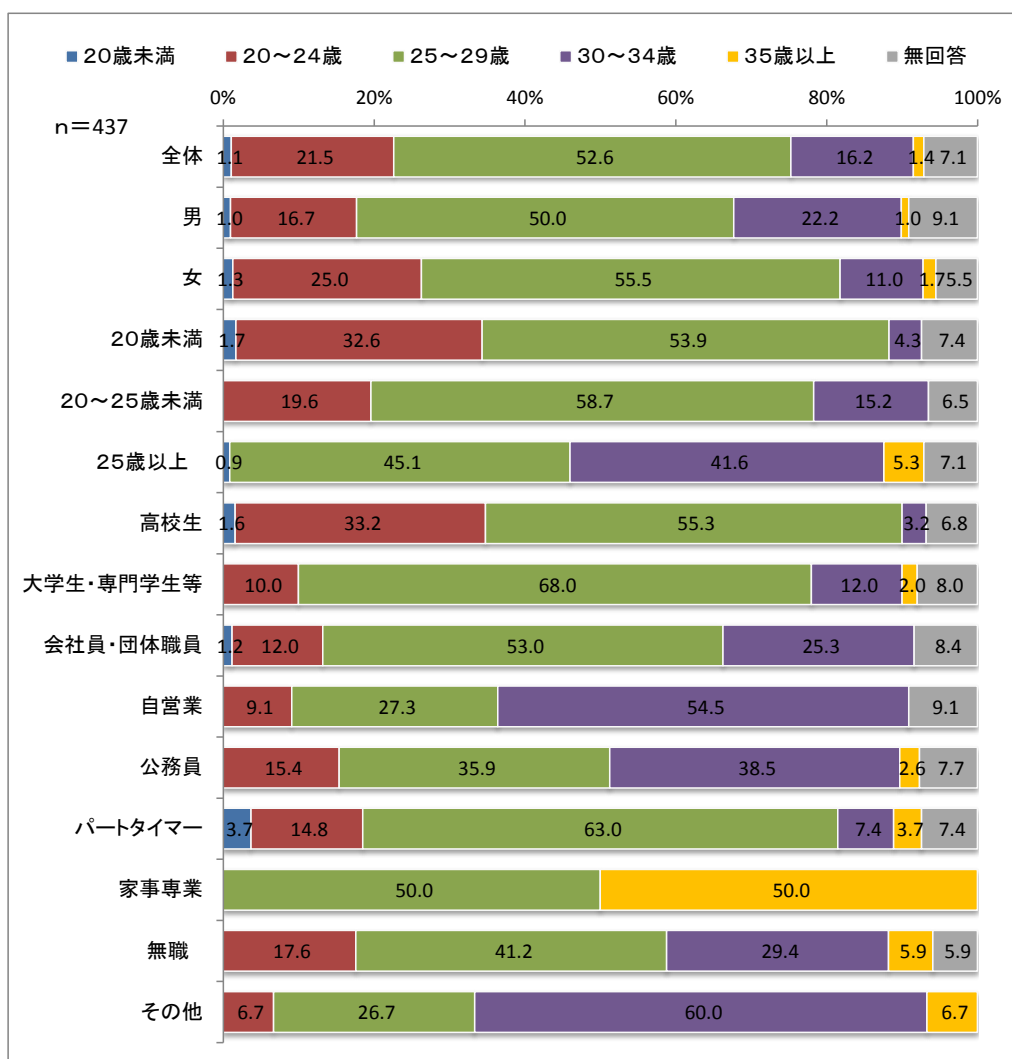




問16. 結婚したいと思う時期。

29歳未満で約7割。

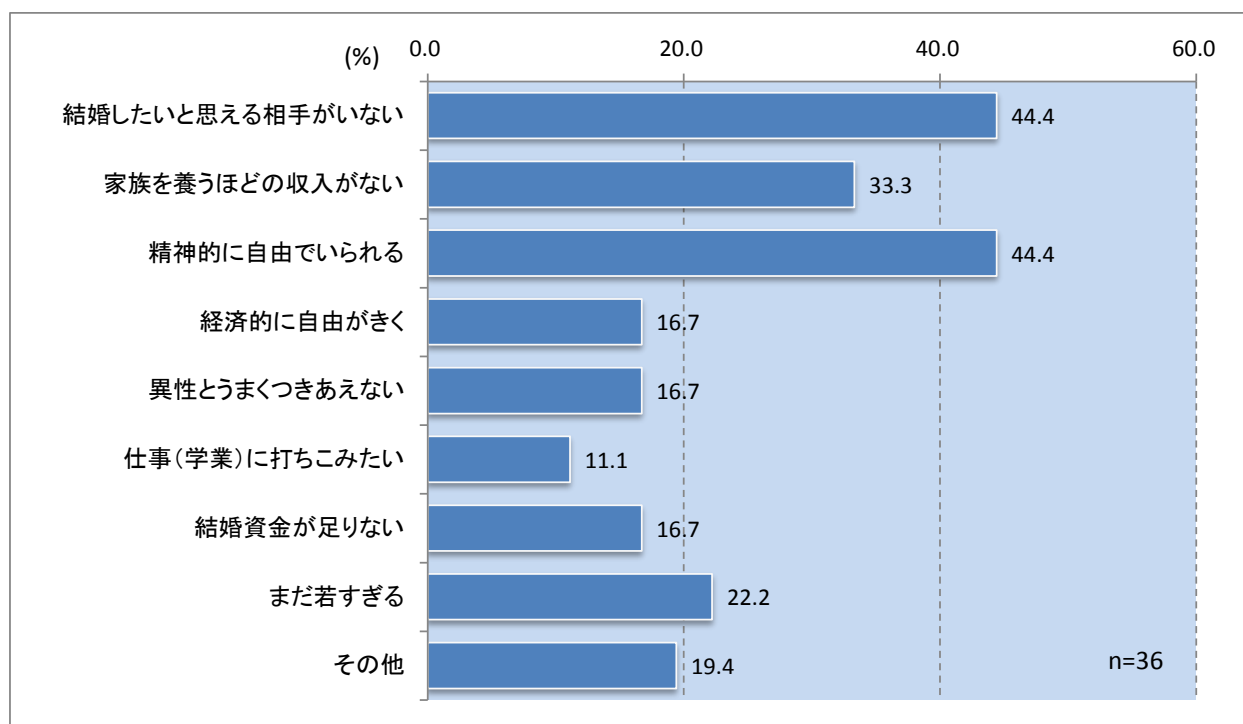
全体傾向	「25～29歳」が52.6%で最も多く、次いで「20～24歳」21.5%、「30～34歳」16.2%と続いている。	
クロス	男女別	男女別では、女性は29歳未満で81.8%と男性を14.1%上回っている。
	年代別	年代別では、年齢プラス10歳での割合（20～29歳、25～34歳、30歳以上）は低くなっている。
	職業別	「自営業」・「家事専業」・「公務員」は30歳以上の割合が高くなっている。



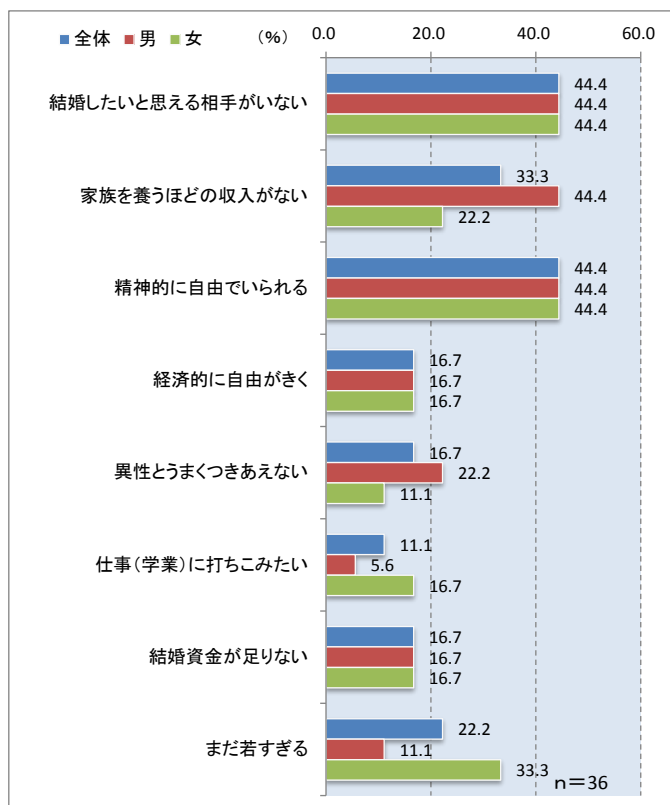
問17. 結婚しない理由。

「結婚したいと思える相手がいない」・「精神的に自由でいられる」がともに4割超。

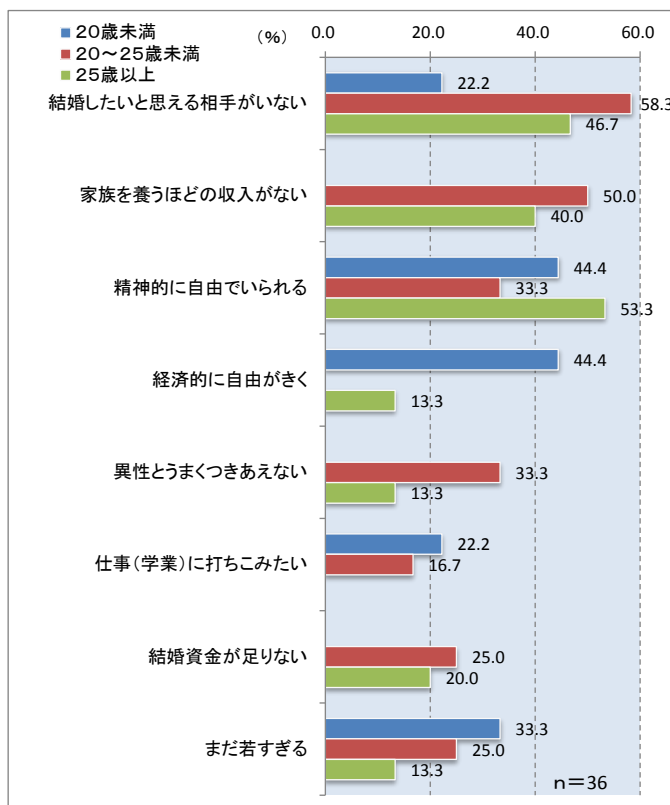
全体傾向	「結婚したいと思える相手がいない」・「精神的に自由でいられる」がともに44.4%で最も多く、次いで「家族を養うほどの収入がない」33.3%、「まだ若すぎる」22.2%と続いている。	
クロス	男女別	男女別では全体との大きな相違は見られない。
クロス	年代別	年代別では、20歳未満は「精神的に自由でいられる」・「経済的に自由がきく」がともに44.4%、20～25歳未満は「結婚したいと思える相手がいない」が58.3%、25歳以上は「精神的に自由でいられる」が53.3%で1位となっている。



(1) 男女別



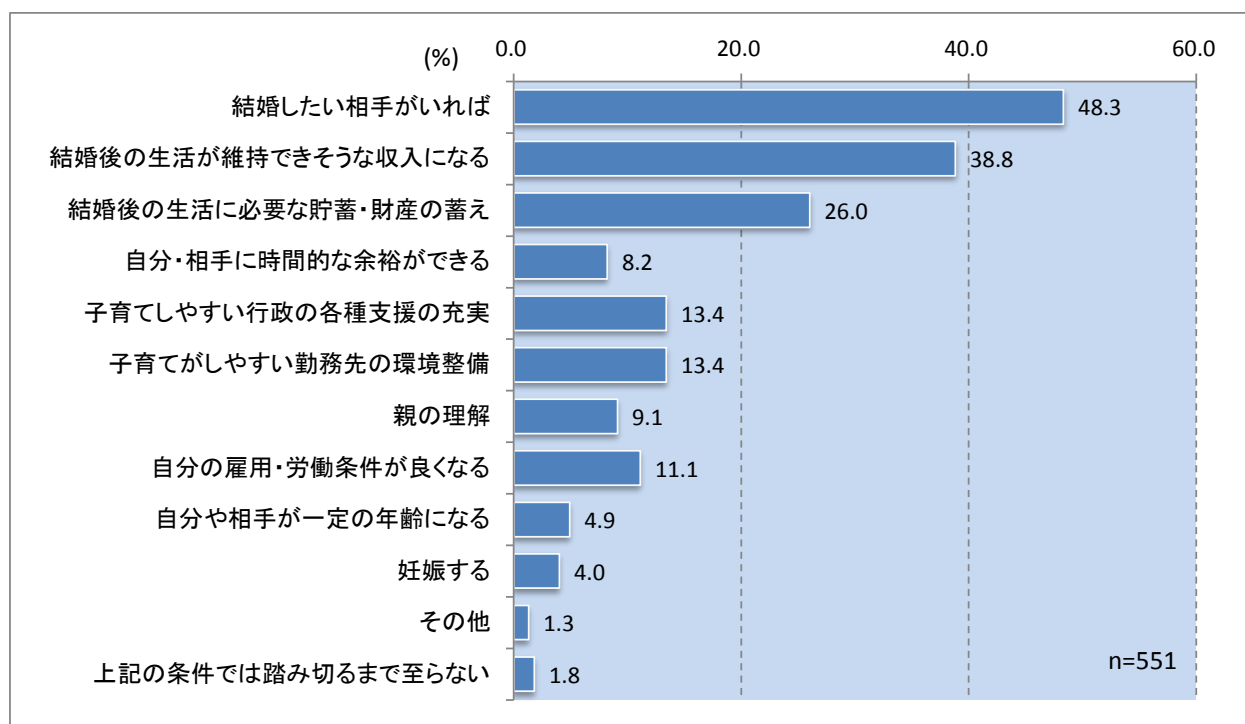
(2) 年齢別



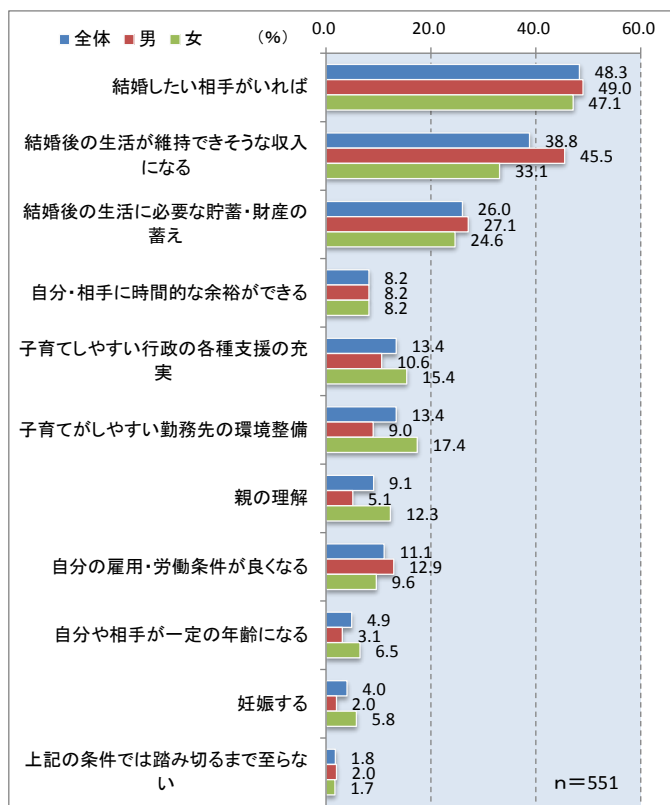
問18. 結婚に踏み切る理由。

「結婚したい相手がいれば」が約5割。

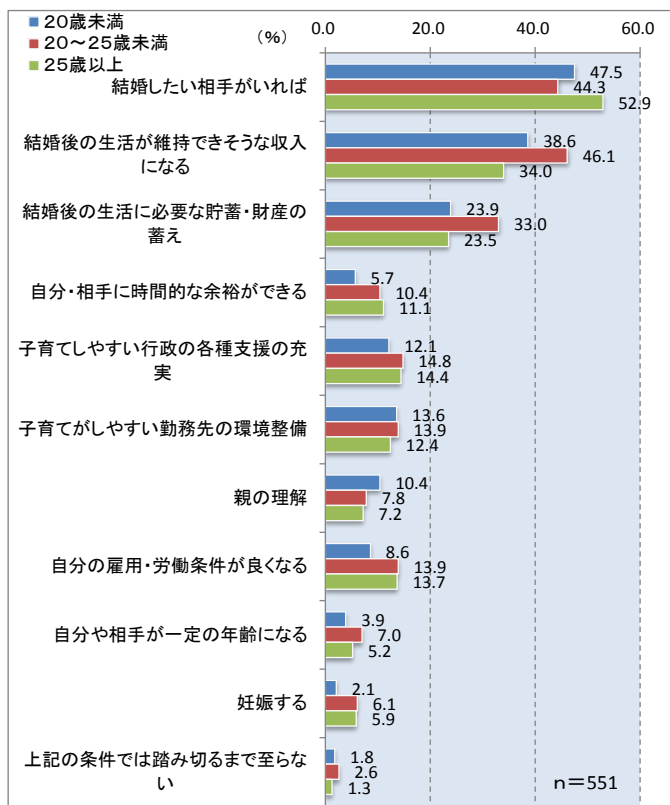
全体傾向	「結婚したい相手がいれば」が48.3%で最も多く、次いで「結婚後の生活が維持できそうな収入になる」38.8%、「結婚後の生活に必要な貯蓄・財産の蓄え」26.0%と続いている。
クロス	男女別
	年代別
	男女別では全体との大きな相違は見られないが、「結婚後の生活が維持できそうな収入になる」で男性が女性を12.4ポイント上回っている。
	年代別では、20歳未満は全体との大きな相違は見られない。20～25歳未満は「結婚後の生活が維持できそうな収入になる」が46.1%で1位、25歳以上は「結婚したい相手がいれば」が52.9%で全体を5.4ポイント上回っている。



(1) 男女別



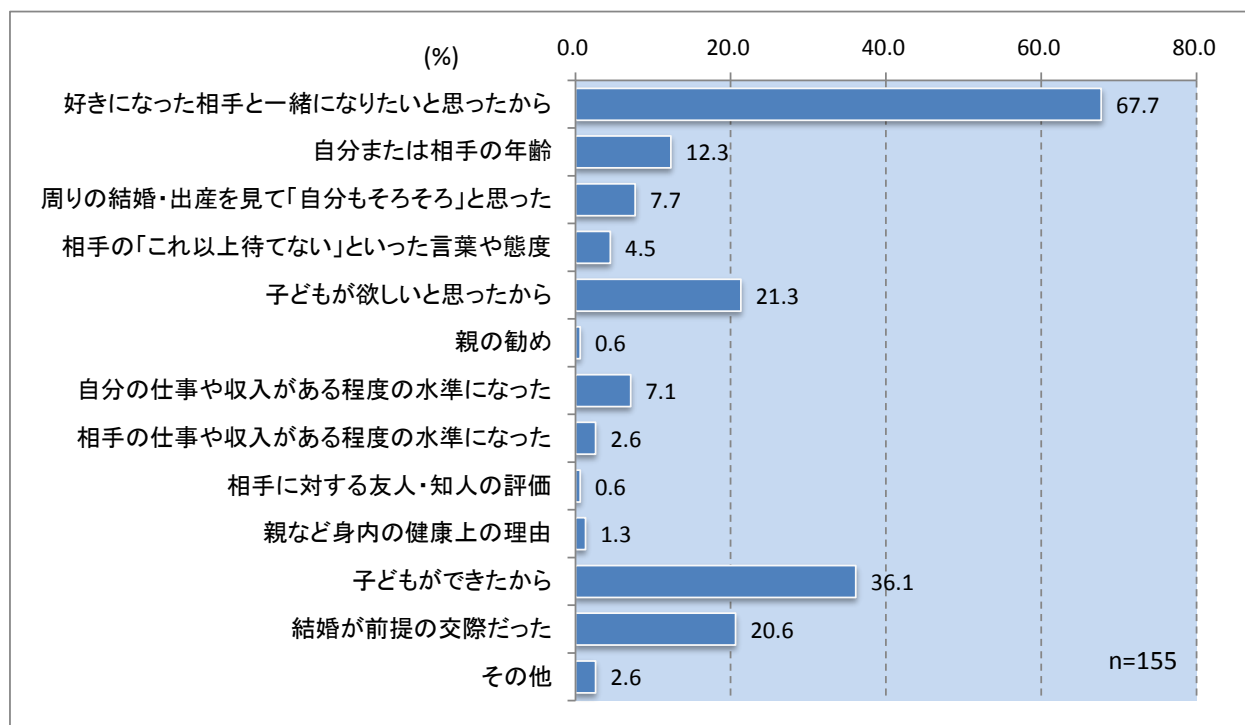
(2) 年齢別



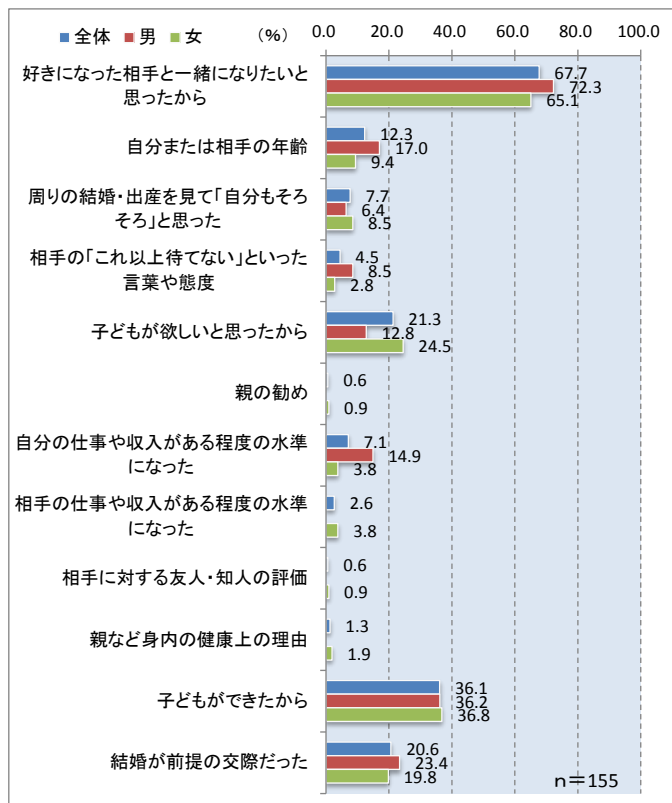
問19. 結婚を決断した一番のきっかけ。

**好きになった相手と一緒にになりたいと思ったから」が約7割。**

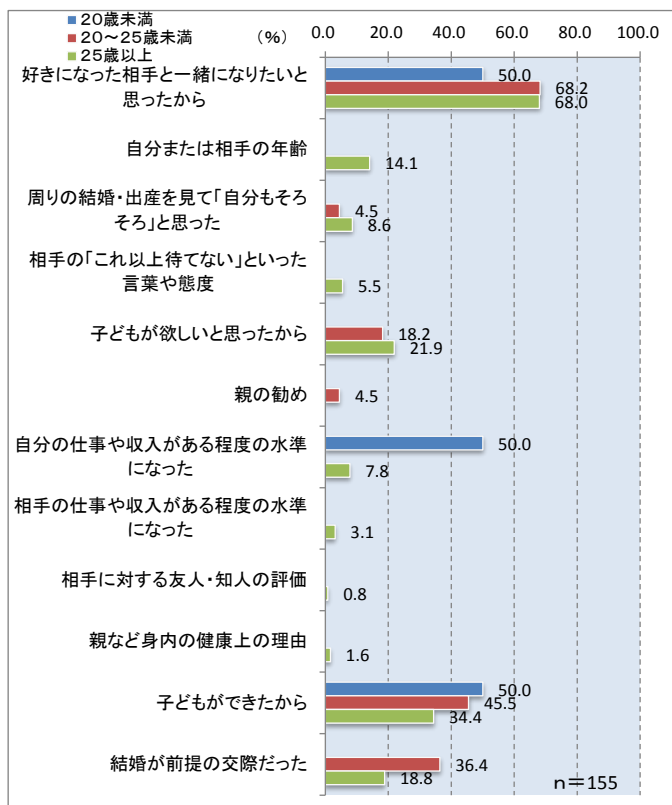
全体傾向	「好きになった相手と一緒にになりたいと思ったから」が67.7%で最も多く、次いで「子どもができたから」36.1%、「子どもが欲しいと思ったから」21.3%と続いている。	
クロス	男女別	男女別では全体との大きな相違は見られない。
	年代別	年代別では、20歳未満は「好きになった相手と一緒にになりたいと思ったから」と同率で「子どもができたから」・「自分の仕事や収入がある程度の水準になった」が1位、20～25歳未満・25歳以上は全体との大きな相違は見られない。



(1) 男女別



(2) 年齢別

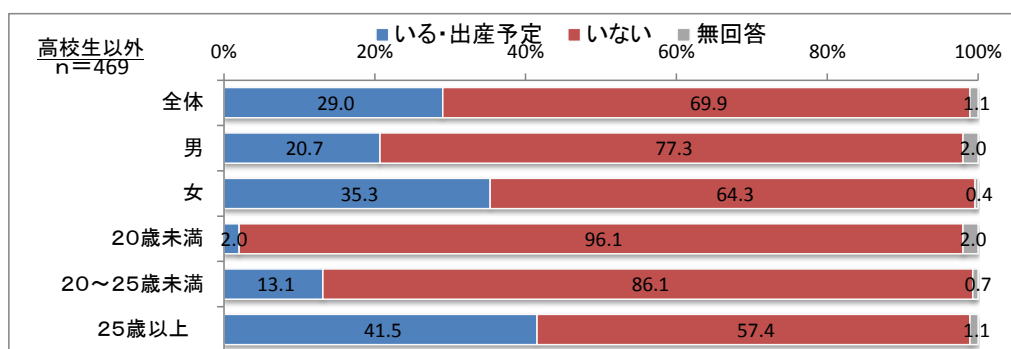
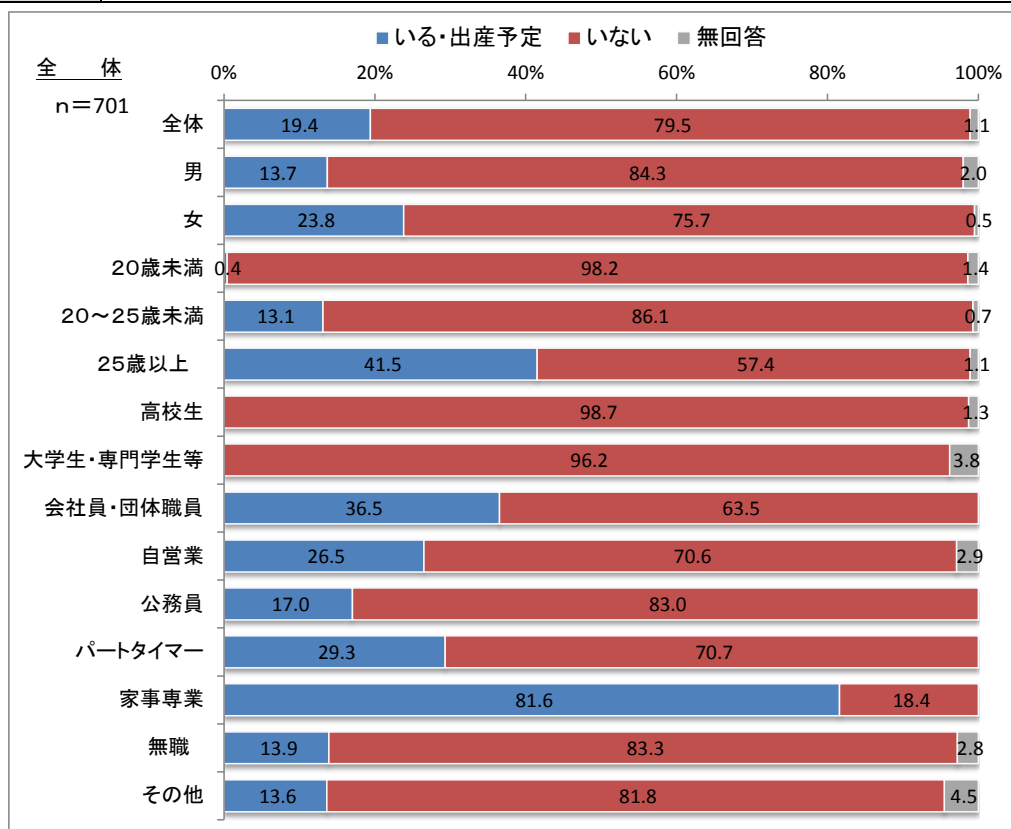


#### 4. 妊娠・出産について

問20. 子どもはいますか。

**全体で約8割が、高校生以外で約7割が「いない」と回答。**

全体傾向	「いる・出産予定」が19.4% (29.0%)、「いない」79.5% (69.9%)であった。 ※高校生以外は( )内表示	
クロス	男女別	男女別では、「いる・出産予定」と回答した割合は、女性が10.1 (14.6%)ポイント高かった。
	年代別	年代別では、年代が上がるごとに「いる・出産予定」と回答した割合が高くなっている。
	職業別	家事専業が81.6%で「いる・出産予定」と回答した割合が最も高い。

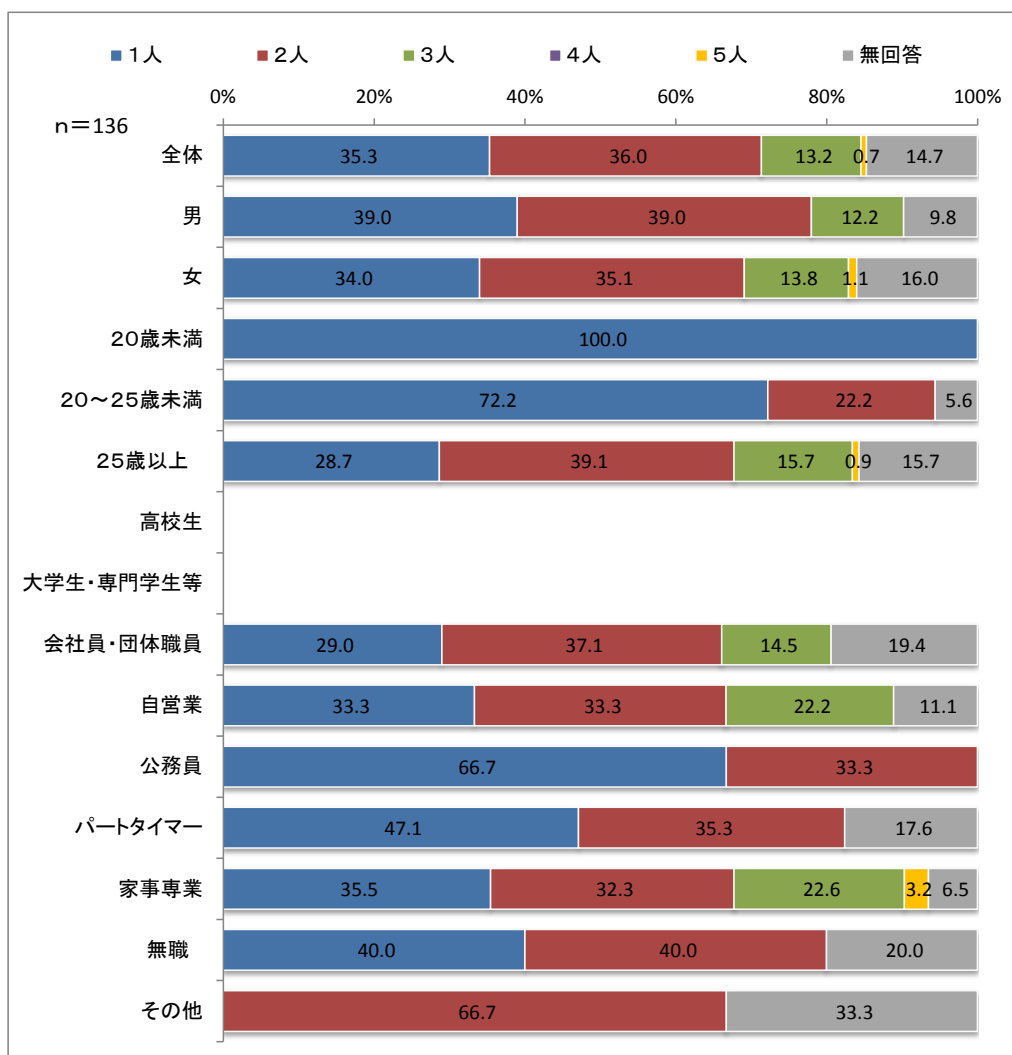




問20. 子どもはいますか。  
(1) 子供の人数

「2人」までで約7割。

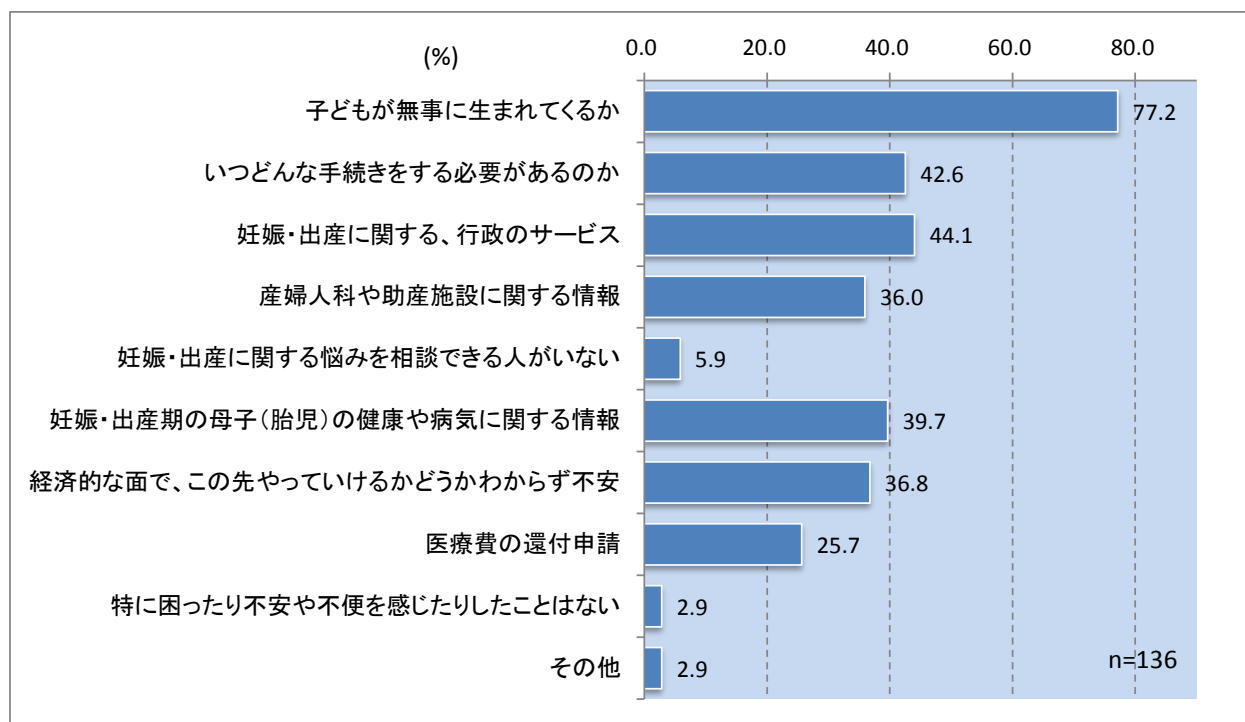
全体傾向		「2人」が36.0%で最も多く、次いで「1人」35.3%、「3人」13.2%と続いている。
クロス	男女別	男女別では全体との大きな相違は見られない。
	年代別	年代別では、年代が上がるごとに「2人」「3人」と回答した割合が高くなっていく。



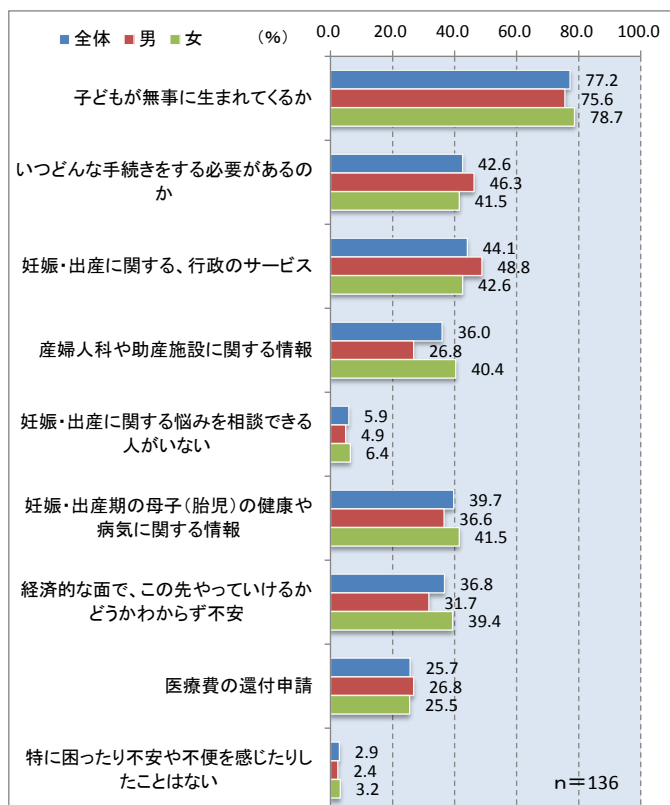
問 2 1. 妊娠・出産に関して調べたことや不安に思ったこと。

**「子どもが無事に生まれてくるか」が約 8 割。**

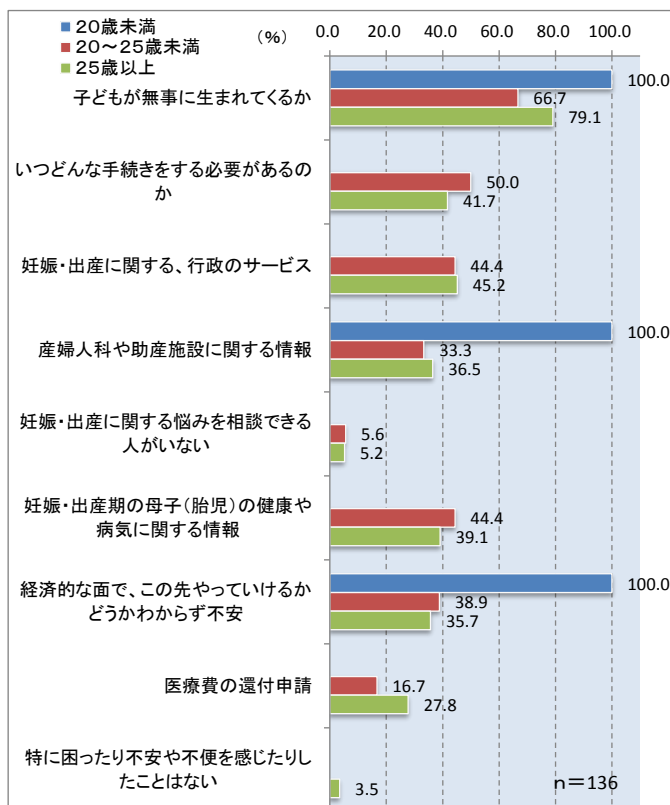
全体傾向	「子どもが無事に生まれてくるか」が 77.2%で最も多く、次いで「妊娠・出産に関する、行政のサービス」44.1%、「いつどんな手続きをする必要があるのか」42.6%と続いている。	
ク ロ ス	男女別	男女別では、「いつどんな手続きをする必要があるのか」等手続きに関する項目は男性がやや高く、「子どもが無事に生まれてくるか」等出産・育児そのものに関する項目は女性がやや高い。
	年代別	年代別では、20歳未満は回答母数1件のため回答項目は全て100.0%となっている。他の年代では、「子どもが無事に生まれてくるか」・「医療費の還付申請」の項目で、25歳以上が20～25歳未満より10ポイント以上高くなっている。



(1) 男女別



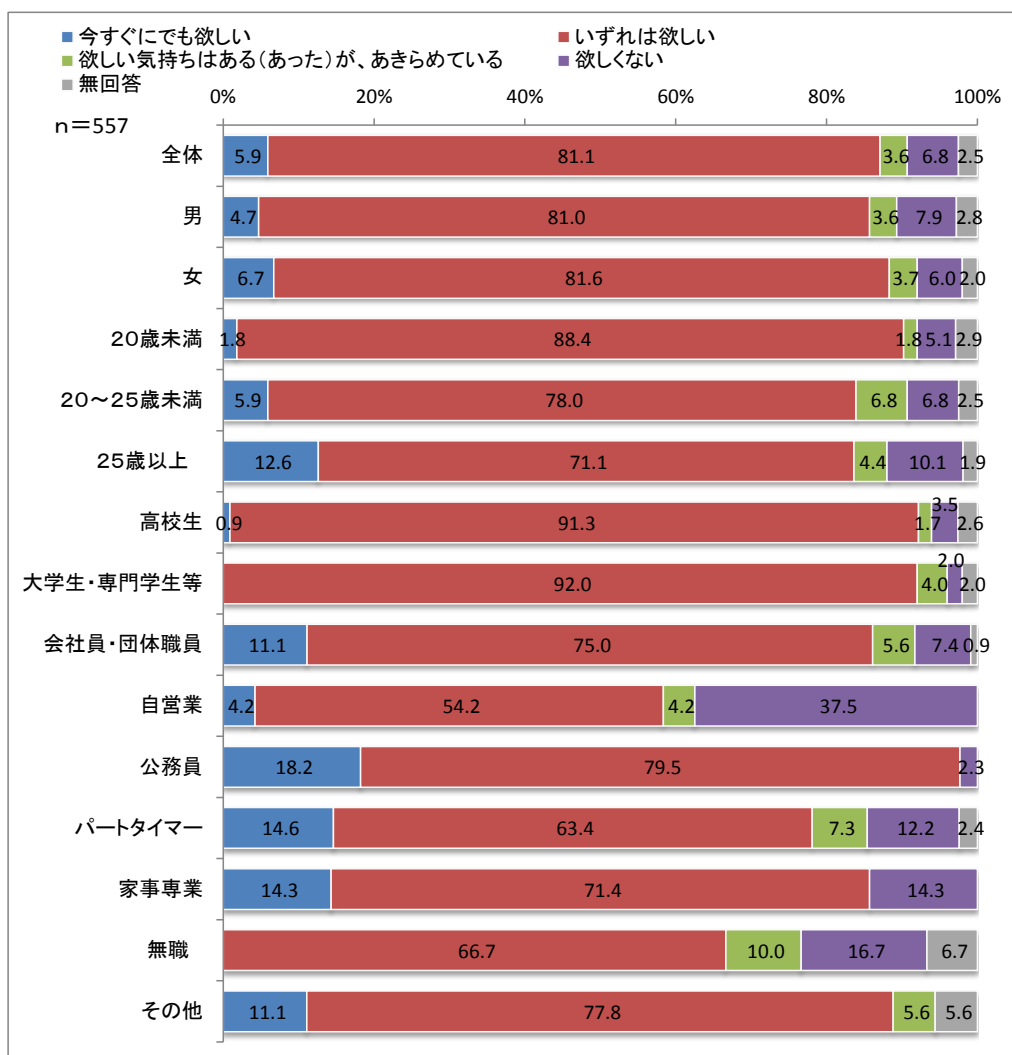
(2) 年齢別



問 2 2. 子どもを欲しいと思うか。

「いずれは欲しい」・「今すぐにも欲しい」で約 9 割。

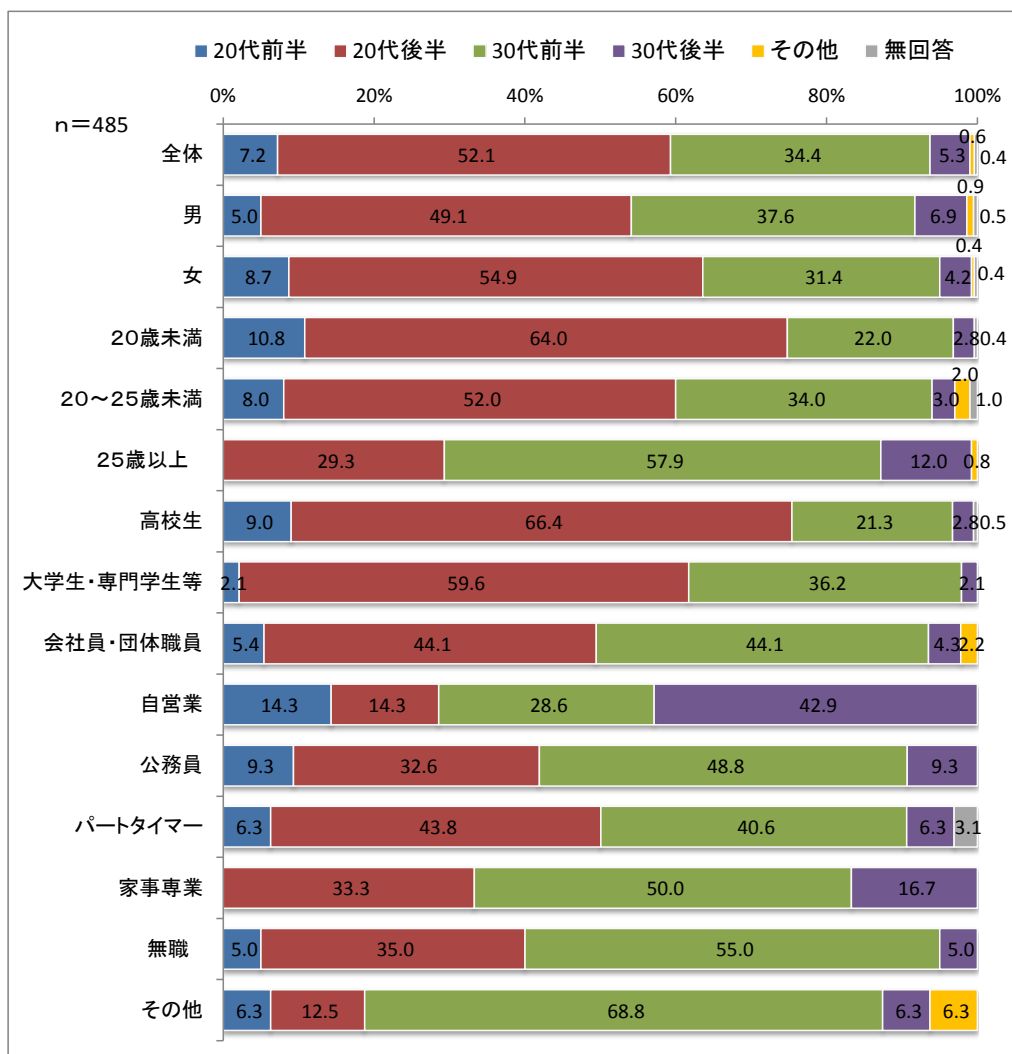
全体傾向	「いずれは欲しい」が 81.1%で最も多く、次いで「欲しくない」6.8%、「今すぐにも欲しい」5.9%と続いている。	
クロス	男女別	男女別では全体との大きな相違は見られない。
	年代別	年代別では、年代が上がるごとに「今すぐにも欲しい」・「欲しくない」と回答した割合が高くなっている。
	職業別	高校生・大学生・専門学生等は 9 割以上が「いずれは欲しい」と回答している。



問23. 子どもは何歳ぐらいまでに欲しい。

「20代後半」が約5割。

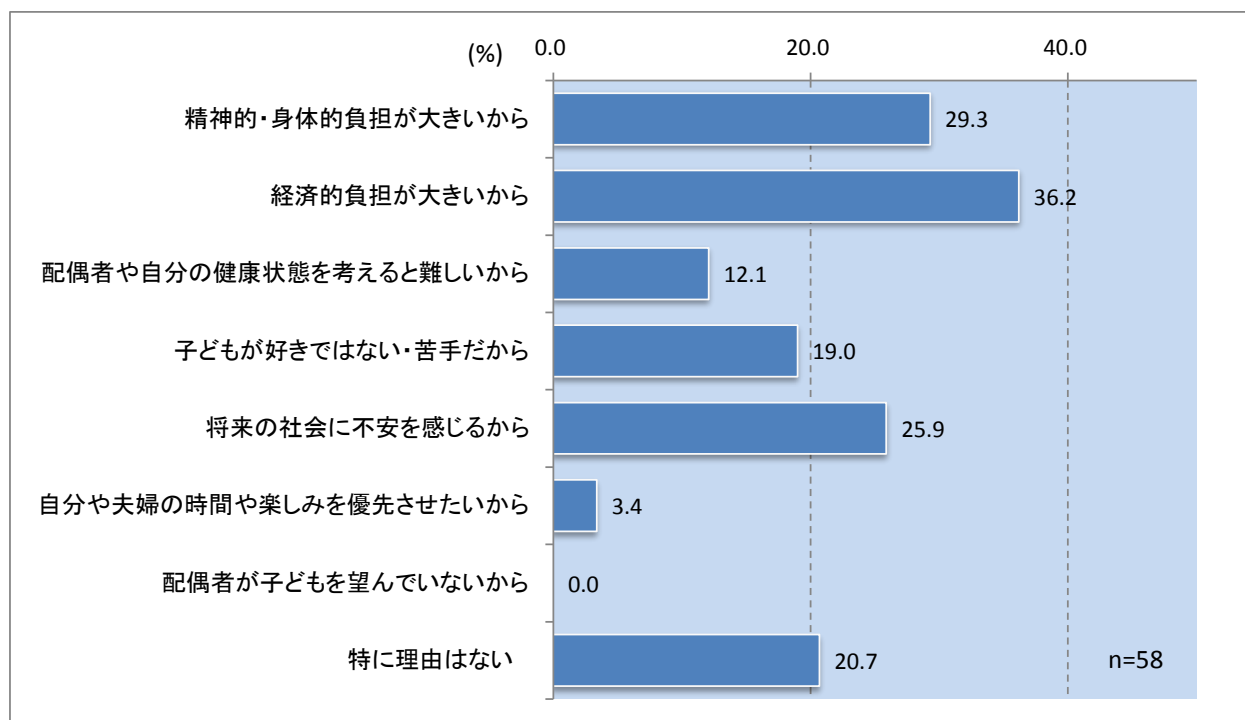
全体傾向	「20代後半」が52.1%で最も多く、次いで「30代前半」34.4%、「20代前半」7.2%と続いている。	
クロス	男女別	男女別では全体との大きな相違は見られない。
	年代別	年代別では、年代が上がるごとに「30代前半」・「30代後半」と回答した割合が高くなっている。
	職業別	自営業は「30代後半」と回答した割合が最も高く42.9%。



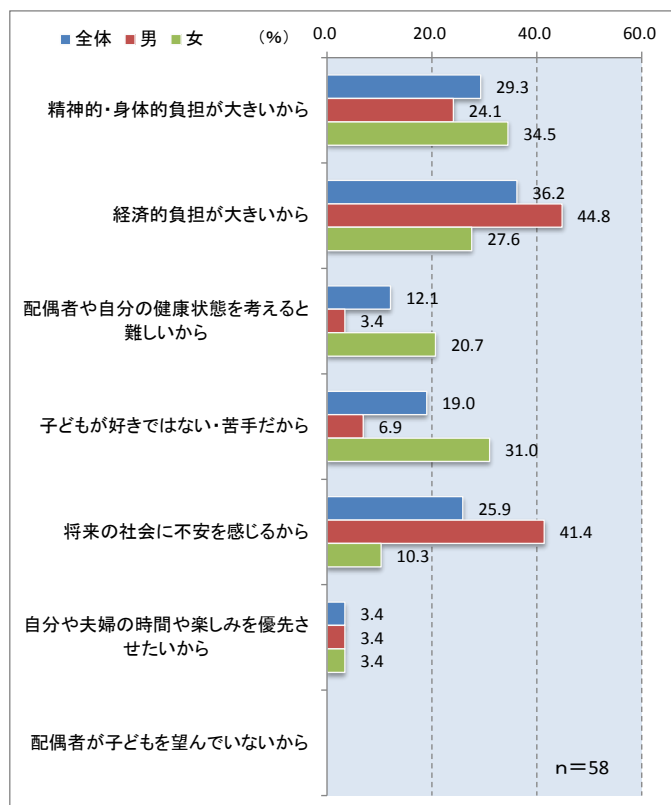
問24. 子どもをあきらめている・欲しくない理由。

**「経済的負担が大きいから」が約4割。**

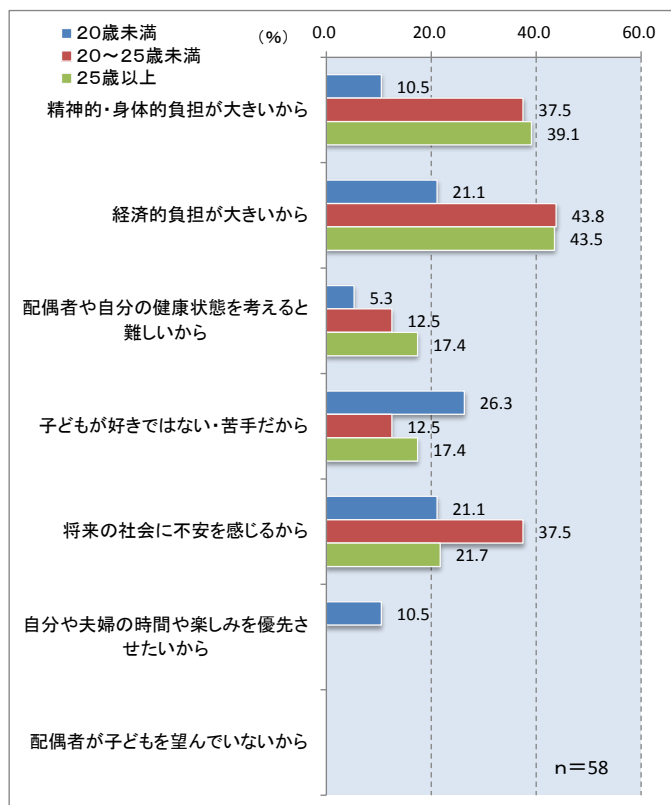
全体傾向	「経済的負担が大きいから」が36.2%で最も多く、次いで「精神的・身体的負担が大きいから」29.3%、「将来の社会に不安を感じるから」25.9%と続いている。	
クロス	男女別	男女別では、「経済的負担が大きいから」「将来の社会に不安を感じるから」は男性が高く、「精神的・身体的負担が大きいから」「子どもが好きではない・苦手だから」は女性が高い。
	年代別	年代別では、25歳以上で「将来の社会に不安を感じるから」が15ポイント以上高くなっている。また、「配偶者や自分の健康状態を考えると難しいから」は年代と比例して高くなっている。



(1) 男女別



(2) 年齢別

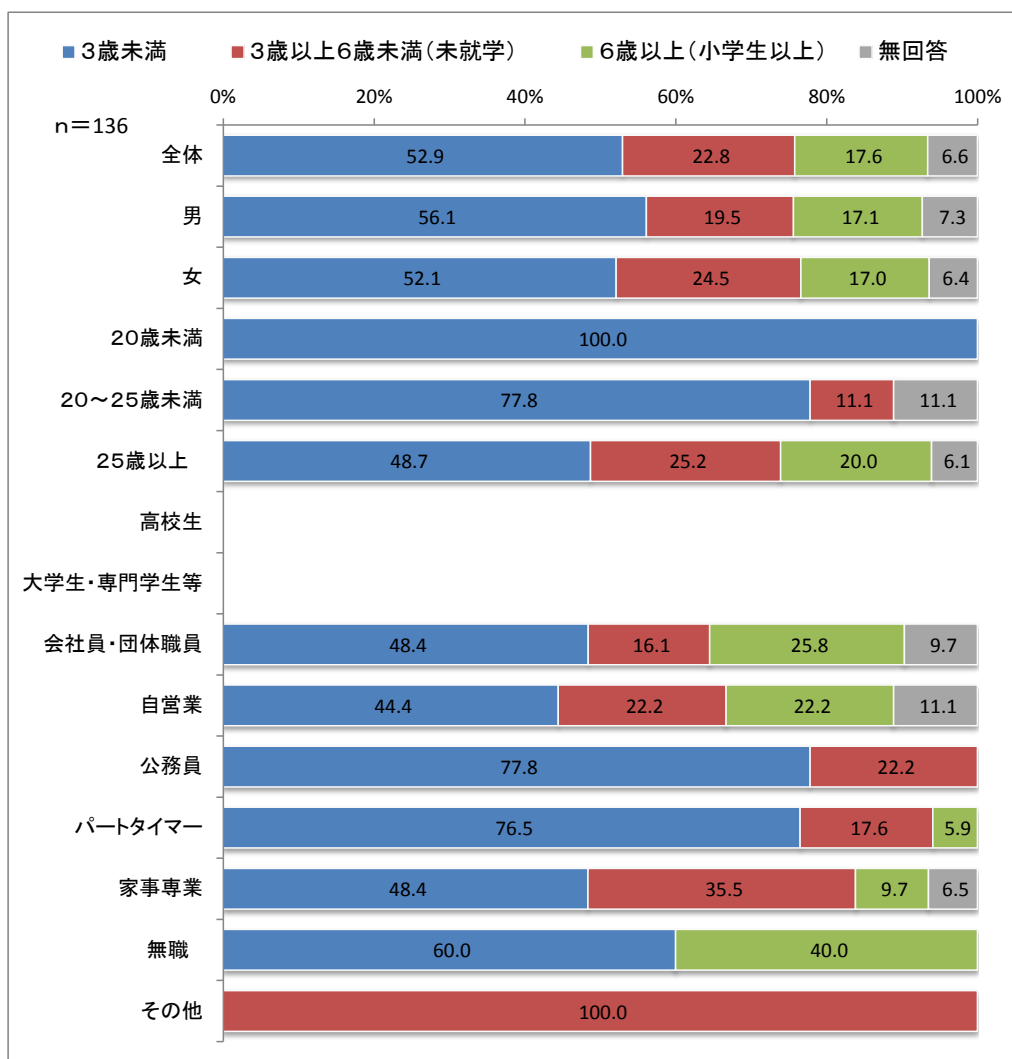


## 5. 育児について

問25. 子どもの年齢。(第一子の年齢)。

**「3歳未満」が約5割。**

全体傾向		「3歳未満」52.9%、「3歳以上6歳未満（未就学）」22.8%、「6歳以上（小学生以上）」17.6%であった。
クロス	男女別	男女別では全体との大きな相違は見られない。
	年代別	年代別では、年代が上がるごとに「3歳以上6歳未満（未就学）」・「6歳以上（小学生以上）」と回答した割合が高くなっている。

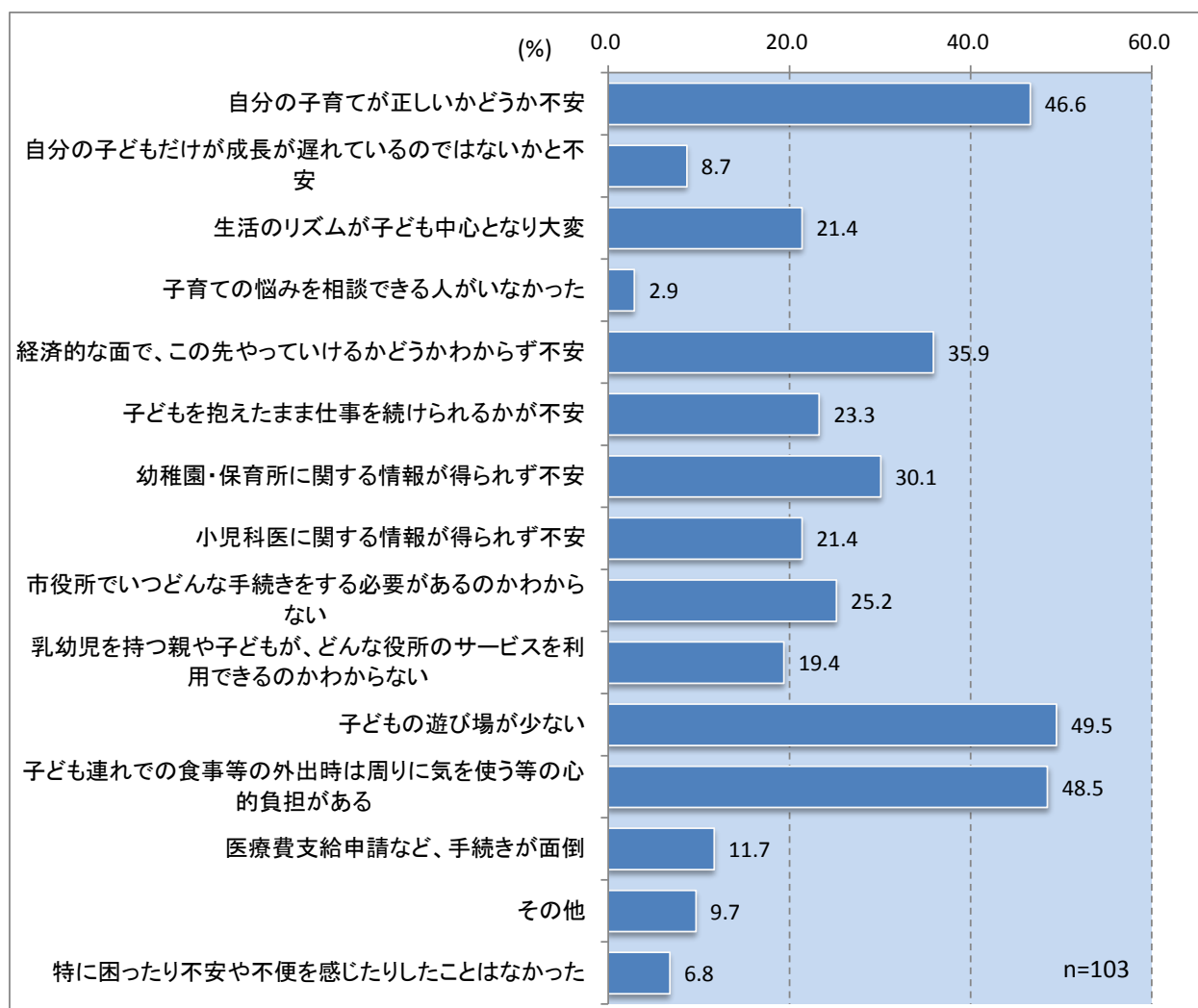




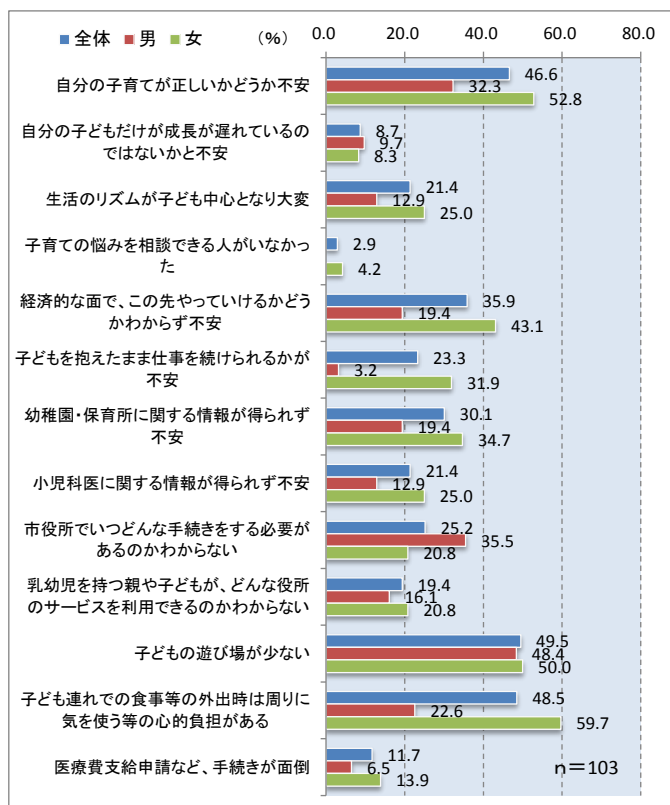
問26. 育児で困っていること。(未就学児童)

「子どもの遊び場が少ない」が約5割。

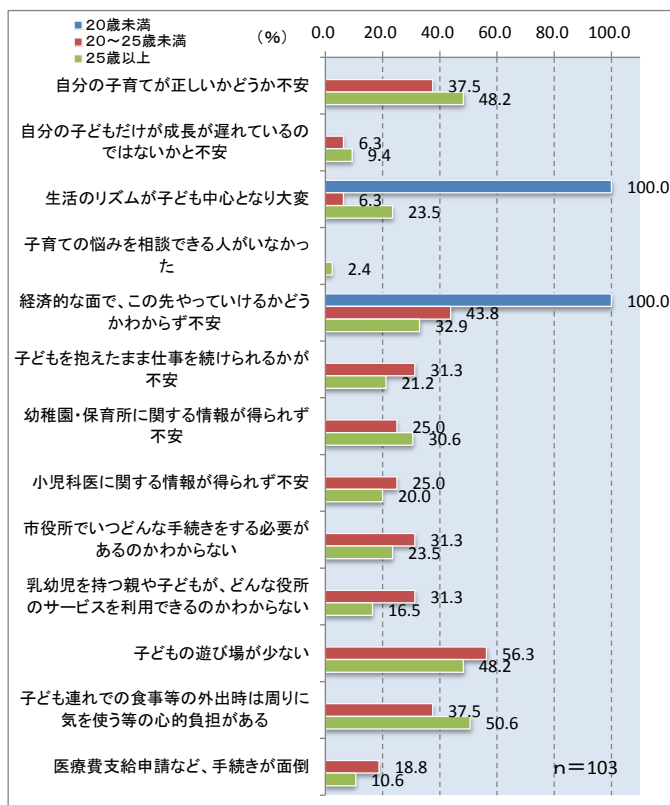
全体傾向	「子どもの遊び場が少ない」が49.5%で最も多く、次いで「子ども連れでの食事等の外出時は周りに気を使う等の心的負担がある」48.5%、「自分の子育てが正しいかどうか不安」46.6%と続いている。
クロス	男女別 男女別では、全般的に女性が高く、男性が上回ったのは「自分の子どもだけが成長が遅れているのではないかと不安」「市役所でいつどんな手続きをする必要があるのかわからない」の2項目であった。
年代別	年代別では、20歳未満は回答母数1件のため回答項目は全て100.0%となっている。他の年代では、全体との大きな違いは見られない。



(1) 男女別



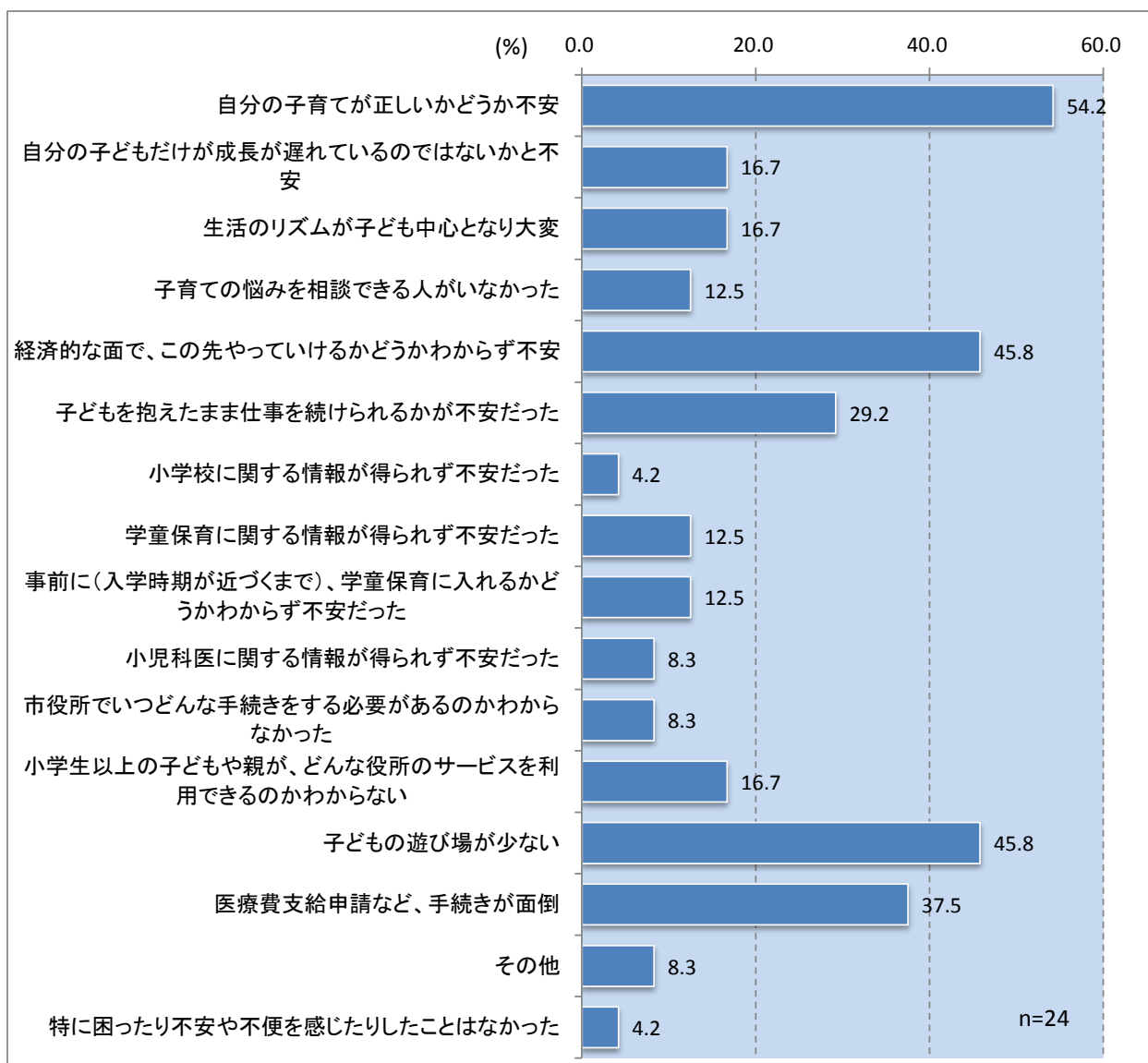
(2) 年齢別



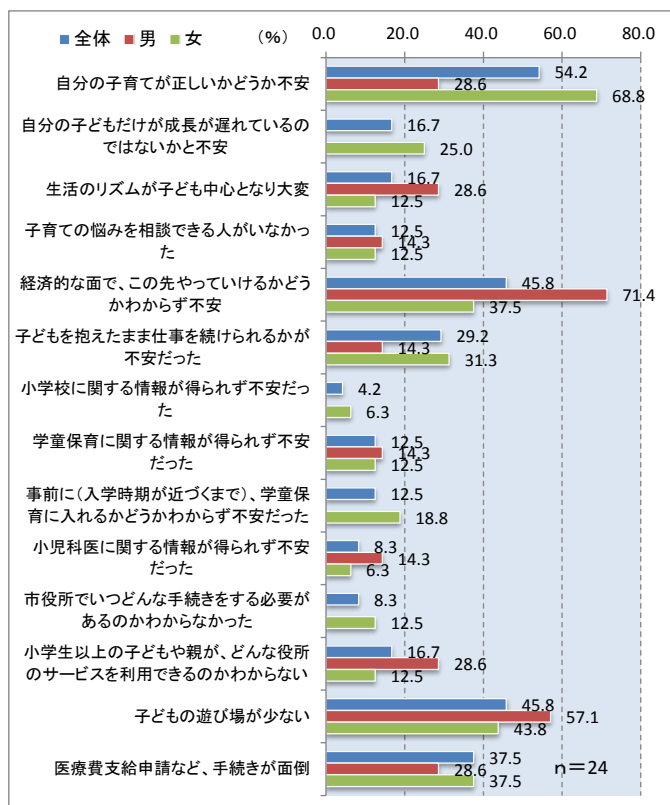
問 27. 育児で困っていること。(就学児童)

**「自分の子育てが正しいかどうか不安」が約5割。**

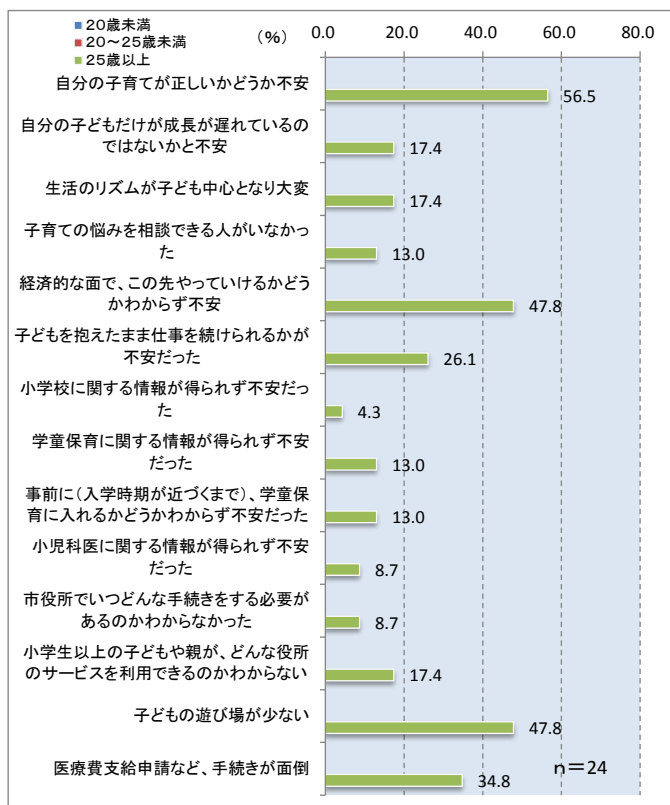
全体傾向	「自分の子育てが正しいかどうか不安」が54.2%で最も多く、次いで「経済的な面で、この先やっていけるかどうかかわからず不安」・「子どもの遊び場が少ない」45.8%、「医療費支給申請など、手続きが面倒」37.5%と続いている。
クロス	男女別 男女別では、全般的に女性が高く、男性が大きく上回ったのは「経済的な面で、この先やっていけるかどうかかわからず不安」「子どもの遊び場が少ない」「小学生以上の子どもや親が、どんな役所のサービスを利用できるのかわからない」の3項目があった。
年代別	年代別は全て25歳以上の回答となっている。



(1) 男女別



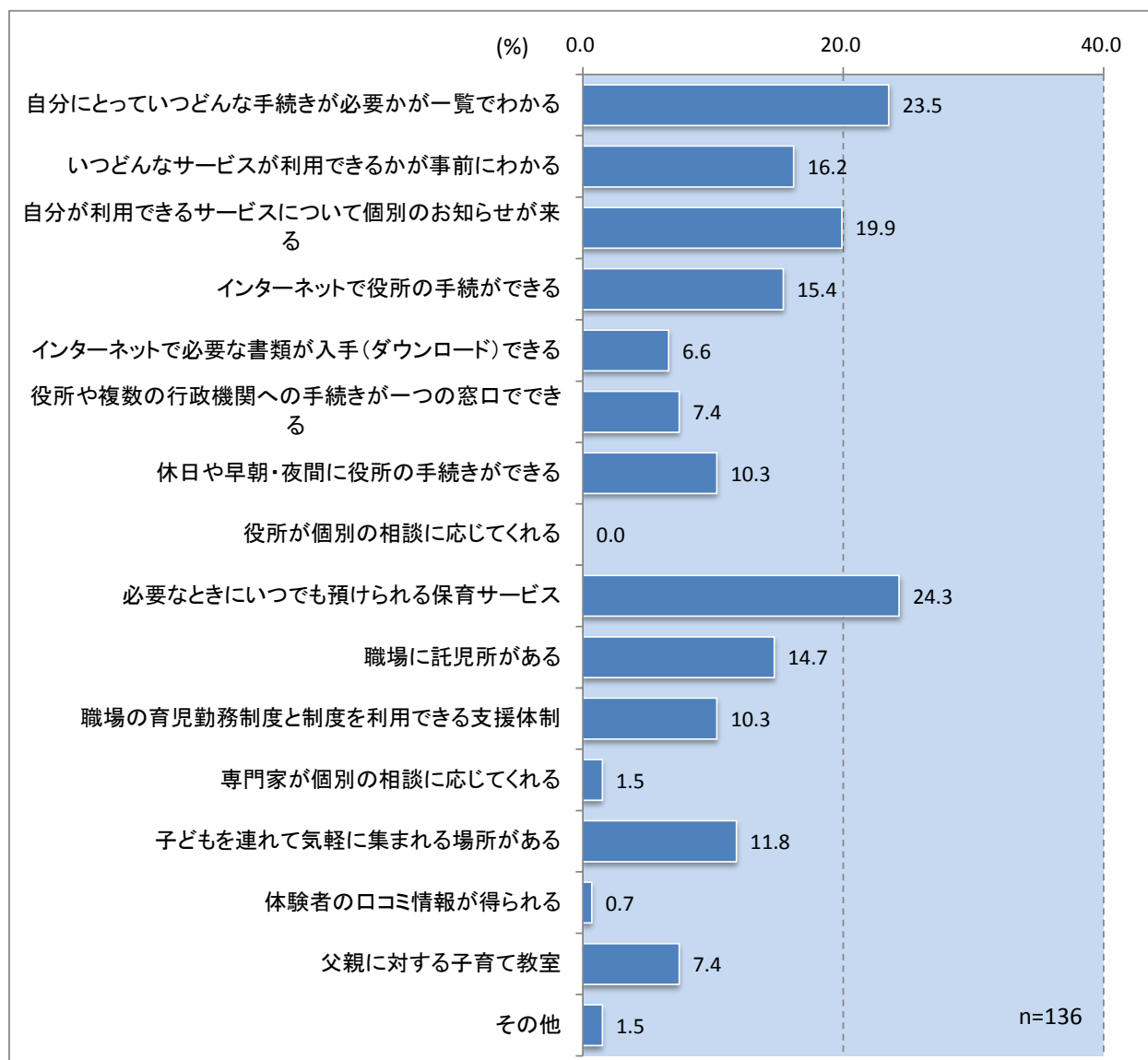
(2) 年齢別



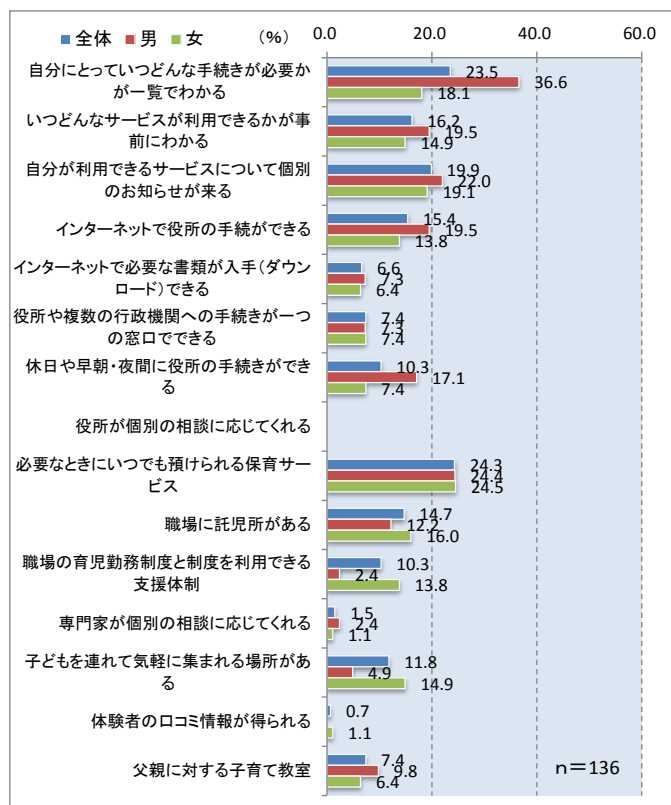
問28. どのような情報やサービスがあると良いと思うか

「必要なときにいつでも預けられる保育サービス」が約1/4。

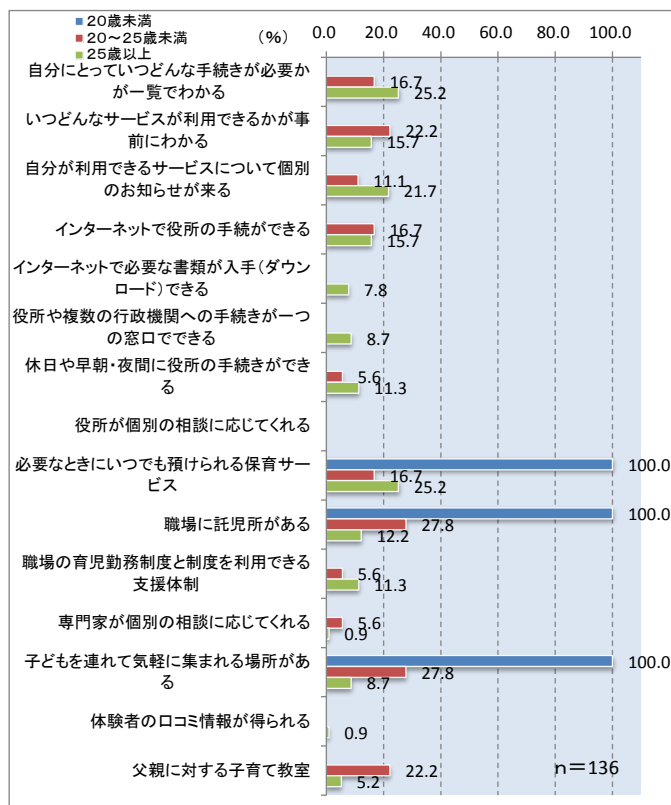
全体傾向	「必要なときにいつでも預けられる保育サービス」が24.3%で最も多く、次いで「自分にとっていつどんな手続きが必要かが一覧でわかる」23.5%、「自分が利用できるサービスについて個別のお知らせが来る」19.9%と続いている。	
ク	男女別	男女別では、男性は手続き関係が高く、女性は保育関連の割合が高い
ロ	年代別	年代別では、20歳未満は回答母数1件のため回答項目は全て100.0%となっている。他の年代では、全体との大きな違いは見られない。



(1) 男女別



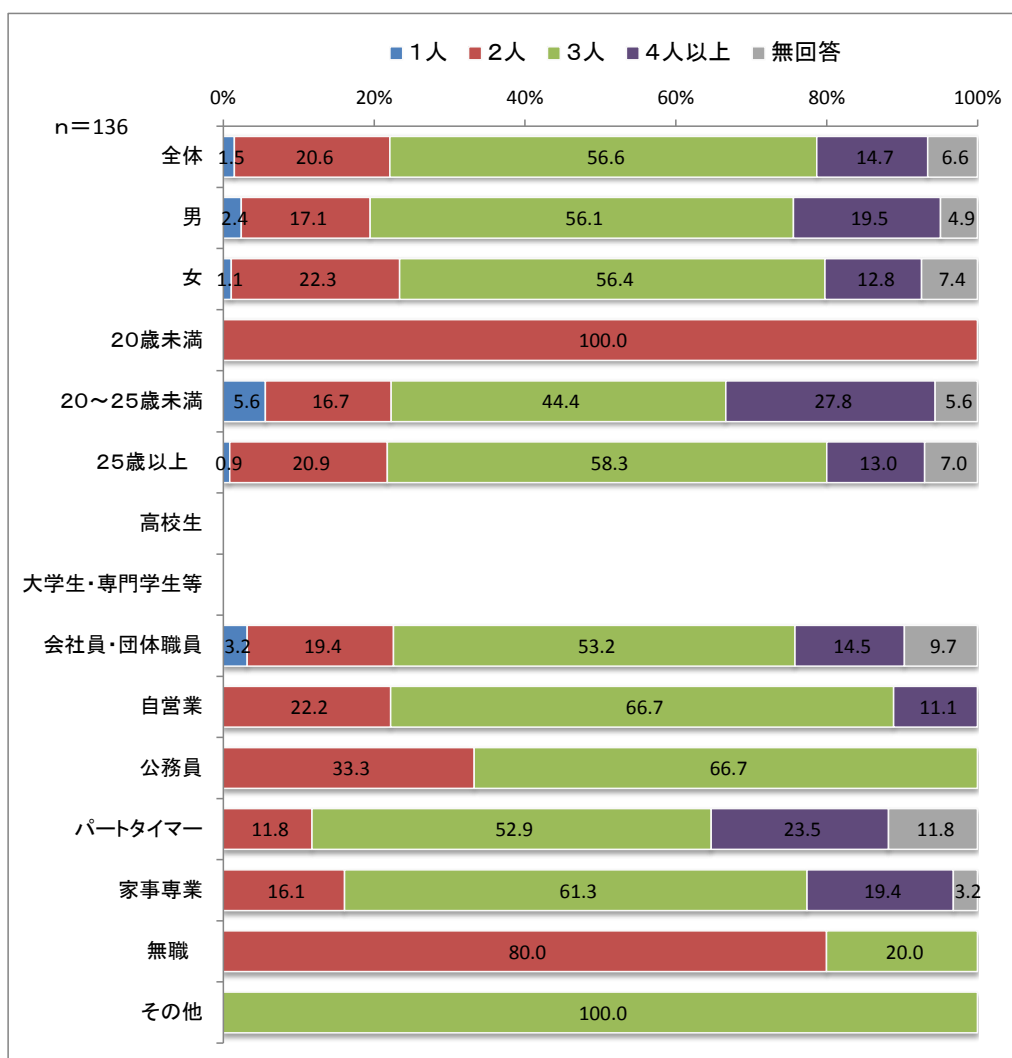
(2) 年齢別



問29. 理想の子どもの数

「3人」が約6割。

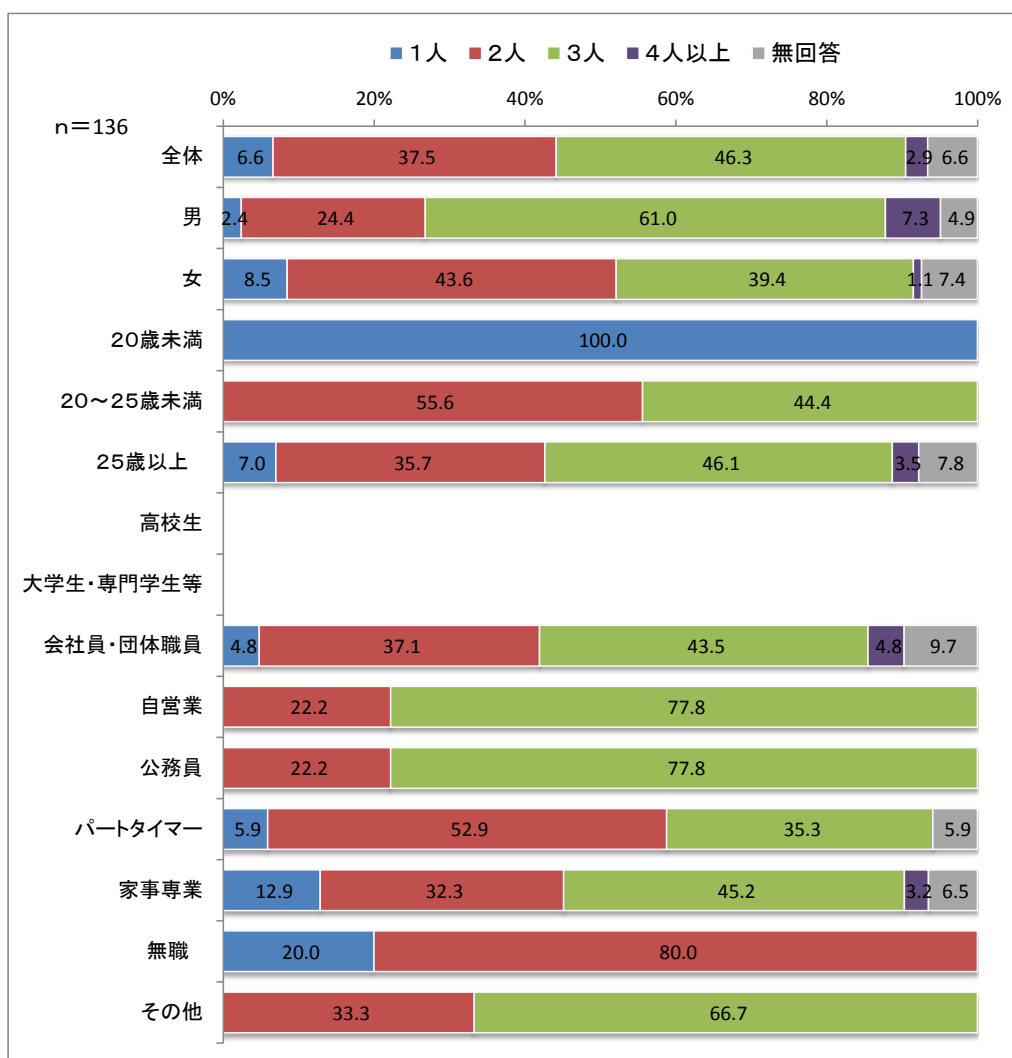
全体傾向		「3人」が56.6%で最も多く、次いで「2人」20.6%、「4人以上」14.7%と続いている。
クロス	男女別	男女別では、男性は3人以上を望む割合が高い
	年代別	年代別では、20～25歳未満は「4人以上」を望む割合が高い。



問30. 現実的な子どもの数

「3人」が約5割。

全体傾向		「3人」が46.3%で最も多く、次いで「2人」37.5%、「1人」6.6%と続いている。
クロス	男女別	男女別では、男性は3人以上の割合が高い
	年代別	年代別では、20～25歳未満は「2人」「3人」で100.0%。





問3 1. 理想と現実的な子どもの数の差が生じる理由

1	経済的な面で無理。二人で働いても子ども二人までが精一杯と言われる。
2	経済的な面
3	子どもを産むまでは3人欲しいと思っていたが、実際育児をしてみて育児ノイローゼのようになり、現実ではもう2人で十分だと思った。2人目の育児休暇を取得すると上の子は保育園に預けることができないことも原因だと思う。産休は産後8週間で終了なのに保育園は生後4か月以降でないといけないので育児休暇を取るしかない状況になる。そうすると上の子は保育園をやめなくてはいけない。吉岐では数少ない安定した正社員なので仕事はやめることはできない。2人目の育児休暇中でも上の子が保育園に行っている場合はやめなくてもいいように制度を変えてほしい。いま吉岐では新庁舎の問題がでているが同じ税金を使うなら子供たちのための施設を作った方が吉岐のためにもなると思う。子どもは産んだら終りではない。少子化と働く環境作りは切り離してはいけないと思う。
4	3人目の出産がとても痛かった。産後もいろいろと大変だった。周りに気軽に頼れる人がいないのでこれ以上は厳しいと思う。将来お金もかかるので。
5	差はないが金銭的な面で困っている。子ども手当をもっと上げてほしい。
6	公園の整備をお願いしたい。石田町森の公園は草が生い茂り中に入る事さえできなかった。定期的に点検してほしい。子どもの室内遊び場を増やしてほしい。幼稚園に壊れた遊具があり危険だ。古くて錆びたおもちゃやブランコなど定期的に点検すべき。育児手当等増やしてほしい。朝1便で行って夕方6時頃に帰れる船の便がほしい。
7	収入の不安定さで将来の収入がわからないのに産めない。仕事も結婚や妊娠するとやめさせられる。子どもがいると会社が雇ってくれない、特に小さい子だと嫌がられる。仕事がないと困る。
8	経済的不安。
9	今の収入では経済的に生活できないと思うから。
10	経済的問題。
11	保育園にあずけられない。保育園に空きがあれば仕事出来るが待ちが長く仕事に出れないため、経済的な事もあり4人は難しい。職場に育児休暇がないと出産するたびに仕事を辞め、また新しい仕事を探さなければならない。
12	奥さんが4人欲しいといっているが2人までが自分としては良い。
13	収入の問題など。
14	夫の仕事が忙しく、ほぼ一日中子供の世話で大変なので、1人でもキツキツなのに3人になると手が回らない。専業主婦で仕事復帰の予定もないので夫の収入だけなので3人で生活するのが精一杯。
15	自分が3人姉妹ということもあり、3人くらい欲しいと思っていますが、実際に現在1人娘を育てていて、子供を育てる事の大変さをしみじみ感じており、2人くらいが限界かと思っています。主人の年齢がいつていること、(私と年の差がある)、子育てをしながら、

	働きたいと思っても壱岐では仕事の幅も少なく、私のしたい仕事の子育てと両立しながらできるのかなと不安な事。そのような理由から、理想と現実の差が生じます。でも子供は授かりものなので、授かれたら大切に育てたいと思います。
16	理想と現実ではやはり違ってきます。生まれてくれれば何とかなるよと親戚から助言されるが、やっぱり経済力がないと無理だと思う。高校卒業後、必ず島外への進学になってしまう。かといって島内に大学などの学校が出来ても経営が難しいと思う。少子化と言っているわりには、仕事が決まらなないと預けられない現実。仕事を探そうとしてもなかなか就職先がない。私は島外から稼いだ者です。壱岐島内に在住の若者に声を聞くのはとてもいいことだと思うが、島外から来ている人にも積極的に声を聞いた方がいいと思う。両親が壱岐の方同士であれば昔はこうだったなどいろんな流れを知っている子供たち（若者）だと思ってしまうので何も変わっていかないと考えた。船代でも日帰りなのに高速船は8000円台。島民割をもう少し効かせてもいいと思う。船代が安くなれば、島外へ行きやすくなり福岡などの都市に住まなくても壱岐で生活する人が増えるのではないかと。里帰りもしやすくなるし、離婚率も下がるのではないかと。子供もいるので当分は壱岐で生活するが、一生この島で生活したいとは言い切れないのが現状。一度に色々改善するのは絶対に出来ないことなので、一つずつ壱岐島が新しく変わってくれることを希望します。10年後、一生この島で生活したいと胸張って言えるように新しい風が吹くことを切に願います。
17	現在、4才と5才の子供を保育所へ預けて働いているが、また、出産、育児のために仕事を辞めたりすると保育所へ入所するのがむずかしい。仕事も保育所の預かってもらえる時間などを考えると限られてくる。
18	お金
19	子供が大きくなった時を考えて兄弟は多いほうが良いが経済的な面ではやっていけないと思う。(共働きをしても・・・)
20	理想では、3人欲しいと思うが子供が小学生と大きくなるにつれ出費がかさむので現実的には2人かなと思う。今は、子供の部活(クラブ等)での遠征なども多いと聞くし、増税はするが所得は増える気配もないのが現実だと思う。どうしても経済的な理由がからんでくると思います。
21	出産の大変さ、産後の性欲消失。
22	共働きでないところではやっていけない。でも、ちょっとした仕事が少ないので仕事を選べない。市内より職少ないし物価も高い。
23	自分の収入と子供達の将来を含めた上での人数。
24	経済的な面を考えると一人で充分。
25	経済的に2人が限界だと思うから。
26	欲しい子との差はないが不妊気味のため、もう1人を授かるのに何年かかるか不安。もっと不妊治療が気軽にできるとうれしいが。
27	最低2人、最高2人、元々そう思っていた。3人になると経済的に無理がある。(負担が大き過ぎる)
28	島内の収入が他県よりも少ないから。働きながら子育てするには、仕事の勤務時間が長い。

	仕事しながらだと子供と接する時間が少ないので、子供ともっと接する時間がほしい。
29	もし3人目を持ったとき仕事をやめると保育所に預けられなくなるし、産前産後は預けられるけどその後、1人で3人を家でみるのが不安。仕事をしていなくても預けられるといい。せっかく子供も保育所に慣れ、生活リズムも整っているのに親の都合で行けなくなると子供もストレスをためるし、親もストレスがたまると思うから。
30	経済面、母親の年齢
31	賃金が安いので理想の人数だと養っていくことができない。
32	子どもの医療費、生活費、学費がかかる。借りている家が家賃は高いが部屋が狭いため。
33	収入。
34	保育料が高い。大人ひとりで子ども3人を買物に連れて行っても一人乗りのカートしかなく不便。福岡のモールのように2人で乗れるカートがほしい。病院代も2歳まで無料ではなく、就学前までにしてほしい。保育園、幼稚園に通っている間は金銭面で大変である。予防接種も集団の方が助かる。子供の数に関係なく、公園の環境により（草が伸びているなど）遊べないことも多い。雨の日に遊べる施設も少ない。
35	仕事の説明会などが行われていることを知らない人が多いと思う。ハローワークなど行っても職がないことが多く、資格がある仕事ばかりですぐ見つからないから、知人の紹介で就職することが多い。説明会などある場合に文書で知らせるべきだと思う。未婚者の住民税など税金に関する金額が非常に高い。若者を残したいのであれば税金などの対処から考えると良いと思う。
36	理想は女1人、男1人。経済的にゆとりを持って育児できるのは3人でぎりぎり。それ以上になると保険など、自分の理想とする育児ができない。大学まで通わせたいので本当は2人でよかったが、性別の関係上3人産んだ。
37	経済面で2人までだと思う。自分自身の体調面でこれ以上、妊娠しないほうがいいと思う。高校生まで1人育てるのに1千万円以上かかると聞いたことがあるから。
38	今現在、3歳までの子どもに対する医療費はかからないが、他の市町村は就学（6歳）まで控除の地域が多い。壱岐市はどうして3歳までなのか、教えてほしい。
39	差は生じないが、大学や専門学校等へ進学を希望する場合、経済的にみると2人以上が壱岐島内では限界だと思う。学費、仕送りなどを考え始めると島内に1つでも進学先があると違うだろうと思う。
40	働く場所がないため収入がない。
41	経済的に難しいと思う。
42	経済的に無理。
43	お金がない。
44	金銭的に余裕がない。出産しても壱岐で産休を取れるところは少ない。産休は取れても、子育てしながら働きやすい環境は全くない。
45	将来に対する金銭面の不安。
46	学校の費用、給食費、医療費など普段の生活でも、お金がかかる。一人ひとりの負担額が多く、遊びにまでお金がなかなかまわり辛くなるため。離島は船も高く、小中学生以下は

	無料にするなどの対策をしてほしい。島内に買い物をするところもなく育児のストレス発散もできず、悪循環である。これでは若者が少なくなるのも無理ない。子どもを連れて遊びに行くところもなく、家族は嘆いている。札幌市の児童会館は最高の遊び場、中標津町の夢の森公園も素晴らしい施設、福岡にもあるようだが、そのような所を参考にして親子で遊べる場所ができるとお客が増え、仕事場も増え、いい影響になると思う。検討してほしい。
47	経済的に金銭的に難しい
48	経済的な面。収入は上がらず、物価が上がる現状。年齢が高くなってからの結婚・妊娠。子育ての環境が整っていない。子育て世帯への支援。子どもを産んでよかったと思える政策。子どもを産んでメリットよりもデメリットの方が多い気がする。
49	妊娠中に上の子の面倒を見られるかが不安。出産が痛いから。子どもの教育費への不安。兄弟仲が必ずよいとは限らないから。
50	子どもをみれる家族がないから。経済的に子どもを育てられない。
51	お金がない。給料が少ない。
52	給料 10 万円で家賃、保育料などを支払うと子育てしやすい環境とは言えない。親や親戚などがない場合、子どもの急病の時に見てくれる病児保育も金額（1 回 2000 円）や時間（8 時半から 17 時半まで）でシフト通りに働けない。介護や病院、サービス業など不規則な仕事の人が多いはずである。しかし、保育する施設は土日祝日休み、平日 7 時半から 18 時までなので、思うように働けない。そのような声に耳と傾ける役所の人もない。そんな島で子育てしたいとは思わない。定年退職した人で若い人をサポートしてくれる人（場所）を作してほしい。年を重ねた人こそ仕事や子育ての大変さをわかっているはずである。実務経験者だから安心して預けられる。そんなところ、サービスをもっと考えてほしい。
53	経済的に不安だから（大学進学時など）。
54	出産時の給付金をもう少し上げてもらいたい。消費税など出費は上がるが給料は上がらないのできつい。
55	子どもが 2 人女の子のため、男の子がほしい。
56	育休は産前 6 週、産後 8 週であるが、市の保育所は生後 4 ヶ月過ぎないと預からないのはおかしいと思う。また、市役所の臨時職員は半年の更新で育休はなし。子どもを預けられなければ仕事をやめないといけない。仕事がなければ育てられないということになる。子ども手当や医療費など助かるが、子ども手当をなくして保育園を無料にしてほしい。もしくは、子ども手当を上げる。生活保護の人の子どもは手当はいらないと思う。生活保護も 6 歳まで 800 円負担させていいと思う。
57	観光も大事だが、このままでは壱岐市は高齢者ばかりの島になってしまう。今一番大事なことは若者にどれだけ壱岐に残ってもらうかである。若者が住みやすく、仕事ができるようにしてほしい。島内での仕事を増やしてほしい。
58	「観光」ばかりに力を入れるのではなく、「就職・給料」をまず、考えてほしい。若者ばかりではなく、どの年代も平等にして、貧困の差をなくす。仕事があり、若者が残れば自然に活性化し、観光客は増える。どうでもいいイベントやギネスに挑戦などはやめてほしい。

	「窃盗事件」なども市が変われば、無くなるのではないか。「爆サイ壱岐」には市に対する不満が多く書き込まれている。以前もこのようなアンケートに協力したが、何も改善されていない。若者が出ていくひとつの要因である「消防団」はこの先なくなったり、合併するのは目に見えている。勧誘はやめて、個人の意思に任せる。市長をはじめ、市役所の人の中には壱岐のことを考えている人もいると思うが、自分のためだけではなく市民のこと、子どものこと、将来の壱岐のため、真剣に取り組んでほしい。
59	経済面を考えると理想と現実では差が生じる。所得を増やしてもらわないと消費税など上がる一方、給料が変わらなければ生活していけないと思う。また、保育所で預かってもらわないと仕事ができない。保育料も下げてほしい。土日祝日快く受け入れてくれる保育所があればもっと良い。もっと住みやすい環境を作ってほしい。今の環境でよりよい子育てをするのは難しい。
60	今の生活状況を考えるとひとりで精一杯である。
61	離島だと子どもを1度は島外に出さないといけないのでお金が掛かる。
62	経済的な問題だと思う。
63	子どもを産む=家族が増える。喜ばしいことなのに先のことを考えると不安でしかたがない。子どもを産みたい人にとっては産んだあとの金銭面や仕事面などの不安が多すぎる。共働きの今の世の中、女性にとって本当に働きやすい職場などあるのか。妊娠の報告をしたとき、嫌な顔をされ、検診に行くのも気疲れし、産休もなく出産直前まで働かせてもらった。1日でも働こうと必死だった。産後も働きたいが預けるところもなく個人の託児所は高い。働いても託児所代になってしまう。この小さな島で、今の世の中で子育てをするのは厳しい。テレビで魅力的な村を見た。子ども1人目、2人目、3人目それぞれに対して給付金があった。金銭的な不安がなくなると少しは楽にこの島で子育てを楽しめると思う。
64	壱岐の収入の水準が低い。なのに進学先は島外なので、当然親の生活は大事になる。島内全体の景気が良くなれば良いと思います。
65	経済面での負担が大きくなるので。
66	子供は欲しいが仕事のこと、産後のこと、お金のことを考えるとあきらめるしかない。



## 第3章 調査結果の検証





### 第3章 調査結果の検証

本アンケート調査では、「吉崎市で暮らすことについて」「結婚について」「妊娠・出産について」「育児について」の4項目について調査を行った。ここでは、各項目の結果から見た今後の課題について取りまとめる。

#### 1. 吉崎市で暮らすことについて

**定住施策のメインターゲットは進学による島外流出者にターゲットを絞り込んだ展開が効果的**

定住意向は年代が上がるほど高くなる傾向にあるが、20歳未満では19.1%、20～25歳未満では13.9%、25歳以上では13.0%が転居意向を持っている。また、「一度は島外に出ても吉崎市に戻って住みたい」は20歳未満では45.0%、20～25歳未満では19.7%、25歳以上では9.7%と年代が上がるほど低くなる傾向にあり、島外に出る理由は20歳未満で「進学」、20歳以上で「就職」となっており、進学による島外流出者にターゲットを絞り込んだ展開が効果的と考えられる。

**ニーズが高い雇用環境の充実をはじめとした総合的な施策展開が必要**

転居意向を持っている理由は「仕事がないから」・「魅力あるイベント、遊ぶ場所が少ないから」・「買い物など生活が不便だから」が上位であり、雇用環境の充実に加え、買物や医療・福祉、公共交通などの生活環境の整備・充実などの総合的な取り組みが必要であり、特に、人口減少の主因となっている若い世代の流出抑制のためには企業誘致をはじめとした雇用環境の充実が急務と考えられる。また、島内での誘致の難しい業種や買物・余暇施設の補填として、福岡市へのアクセス環境（時間・料金）の整備も必要と思われる。

#### 2. 結婚について

**巡りあいの場所・機会の提供など後押しの施策展開が必要**

独身者の結婚の意向は約8割があり、うち20歳代で結婚したいが約7割と回答している。しかし、結婚の意向無しも約7%あり、理由は「結婚したいと思える相手がいない」・「精神的に自由でいられる」が上位であり、結婚したい相手に巡り合えていない・巡り合う環境にないことが窺える。またデジタル化が進んだ現代社会の中で、個々のコミュニケーション能力の低下も考えられ、学校教育等早い時期からコミュニケーション能力育成のための施策展開が必要と思われる。その他、結婚の意向ある者も結婚に踏み切る理由として「結婚したい相手がいれば」が1位となっており、男女の巡り合える場所・機会の提供など行政による後押しの施策展開も必要と考えられる。

### 3. 妊娠・出産について

#### 安心して出産できる環境の整備や情報の周知を図る

出産予定を含み子どもがいると回答した割合は約 20%であり、そのうち 2 人以上が約 50%であった。吉崎市は、合計特殊出生率が平成 20 年～平成 24 年平均で 2.14 と、全国の 1.41（平成 24 年）、長崎県の 1.63（平成 24 年）を大きく上回っており、更に、人口置換水準である 2.07 をも上回り、現状の水準を維持していれば出産に関する問題はないと考えられる。また、子どもを欲しいとの回答は約 9 割あり、理想の子どもの数としての回答も 3 人の回答が最も多く妊娠・出産に対する意向は高い結果であった。

一方、出産に対する不安は「子どもが無事に生まれてくるか」が約 8 割、その他出産に係る情報・手続きが 4 割前後と高く、出産前の出産に関する情報の提供・相談会等の充実など、安心して出産できる環境の整備や情報の周知を図る必要があると考えられる。

### 4. 育児について

#### 育児に関するハード・ソフトの充実が必要

育児に関する問題として、就学・未就学共通でハード面は「遊び場がない」、ソフト面では「子育てが正しいか不安」が挙げられている。また、求められるサービスとしては「保育サービス」が 1 位となっている。

対策として、既存施設の活用・整備による対応、学童保育の充実や保育時間・期間の延長などによる対応が必要である。また、自由記述に多く見られた経済的負担解消のために、医療保障等の支援施策をより充実させる施策展開も必要と考えられる。

